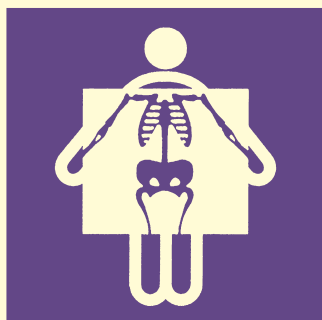


藤枝市立総合病院学術誌

FUJIEDA MEDICAL JOURNAL

2024 Vol.30-No.1



藤枝市立総合病院

巻 頭 言

藤枝市病院事業管理者 毛 利 博

新型コロナウイルス感染症がようやく下火になってきました。これまでの職員の努力に深く感謝します。5月には新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されました。しかし、まだまだ油断はできませんので感染対策をしっかりと行うことが必要です。

この1年の出来事では、4月に地域がん診療連携拠点病院（高度型）から地域がん診療連携拠点に名称の変更があり、救急科を外傷救急科、内科救急科、災害救急科に再編し、脳卒中科、IVRセンターを開設した。また、8階に緩和ケア病棟及び新外来価格療法センター改修工事が施工された。9月には卒後臨床研修評価（JCEP）認定更新があった。10月には、良性子宮疾患のロボット支援手術が保険適応になった。

本年度の藤枝市立総合病院学術誌をお届けします。原著が診療部で2編、診療技術部で1編が掲載されています。原著は大切ですので、積極的に投稿していただくことを期待します。

目 次

原 著

《診療部》

上顎骨腫瘍切除後の欠損に対して頬脂肪体有茎移植を行った骨形成性エプーリス
の1例

金子和嘉子 ほか (2)

ダブルルーメンチューブ挿管による声門下狭窄の1例

菅原 康介 ほか (8)

《診療技術部》

当院における胸部領域での自動輪郭作成精度の評価

大川 剛史 ほか (13)

業績リスト

《診療部》

(21)

《薬剤部》

(39)

《診療技術部》

(39)

《看護部》

(41)

《健診センター》

(43)

投稿規定

(44)

学術業績リストの形式

(45)

編集後記

(46)

原 著

上顎骨腫瘍切除後の欠損に対して頬脂肪体有茎移植を行った骨形成性エプーリスの1例

藤枝市立総合病院 歯科・口腔外科¹⁾
京都大学大学院医学研究科 口腔外科学²⁾
北里大学医学部 形成外科・美容外科学³⁾

金子和嘉子¹⁾、渡貫 圭¹⁾、廣田 誠^{1,2)}、君塚幸子^{1,3)}

【要旨】

エプーリスは、慢性的な刺激や炎症によって歯肉に発生する反応性の増殖物である。このうち、骨形成性エプーリスは線維性組織の中に硬組織形成を伴うものとされている。今回われわれは右側上顎の顎堤粘膜に発生した骨形成性エプーリスに対して上顎骨腫瘍切除術を行い、開洞部を含めた欠損に頬脂肪体有茎移植を行った1例を経験したので報告する。症例は62歳・女性、右側上顎大白歯部顎堤粘膜の腫瘤による義歯不適合を自覚し、近歯科を受診した。右側上顎骨腫瘍の診断にて精査目的に当科紹介受診となった。口腔内所見では、右側上顎大白歯部顎堤粘膜に境界明瞭なやや弾性硬の有茎性腫瘤を認めた。CT所見では病変内部に骨様のX線不透過像を認めた。右側上顎良性腫瘍の診断のもと、全身麻酔下に腫瘍切除術を施行した。上顎洞との開洞部を含めた欠損には、頬脂肪体有茎移植を行い閉鎖した。摘出標本は、33×22×30mm大の充実性腫瘤状病変であった。病理学的には周辺型セメント・骨形成性線維腫の像を呈し、いわゆる骨形成性エプーリスとして矛盾しない所見であった。術後6年を経過したが、創部は上皮化して再発の兆候はなく、義歯装着も可能で経過は良好である。

【緒言】

エプーリスは、慢性的な刺激や炎症によって歯肉に発生する反応性の増殖物である⁽¹⁾。このうち、骨形成性エプーリスは線維性組織の中に硬組織形成を伴うものとされている⁽²⁾。今回われわれは右側上顎の顎堤粘膜に発生した骨形成性エプーリスに対して上顎骨腫瘍切除術を行い、開洞部を含めた欠損に頬脂肪体有茎移植を行った1例を経験したので報告する。

【症例】

患者：62歳・女性

主訴：右側上顎大白歯部顎堤粘膜の腫瘤

既往歴：高血圧症

現病歴：X年6月、右側上顎大白歯部顎堤粘膜の腫瘤による義歯不適合を自覚し、近歯科を受診した。右側上顎骨腫瘍の診断にて精査・加療目的に当科紹介受診となった。

初診時全身所見：身長153.5cm、体重57kg、意識清明で経口摂取可能であった。

初診時口腔外所見：顔貌は左右対称、明らかな開口障

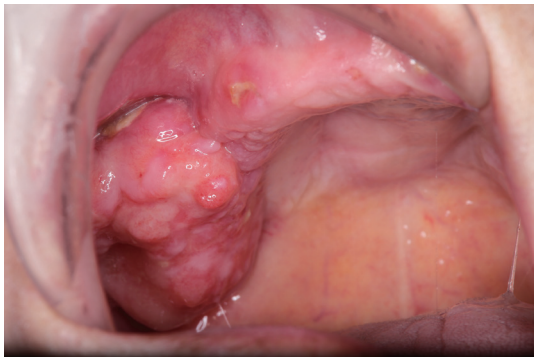
害や顎下リンパ節の腫脹はみられなかった。右側眼窩下神経知覚障害は認めなかった。

初診時口腔内所見：右側上顎大白歯部顎堤粘膜に30×25mm大の境界明瞭なやや弾性硬の有茎性腫瘤を認めた。一部潰瘍を伴う部位もみられた。〈図-1〉

初診時画像所見：パノラマX線写真では、右側上顎骨に不透過像を伴う病変を認めた。コーンビームCT画像では、病変部に30×25×15mmのX線不透過像を認め、一部境界不明瞭であった。造影CT画像では、長径30mmの上顎骨吸収を伴う病変を認めた。〈図-2〉

MRIでは、右側上顎に長径30mmの病変を認め、T1強調像で中等度信号、T2強調像で辺縁リング状に高信号を示した。〈図-3〉

処置および経過：局所麻酔下に生検を施行したところ、重層扁平上皮下間質に線維組織の増生、骨形成がみられ、悪性所見は認めなかった。右側上顎良性腫瘍の診断のもと、X年9月7日全身麻酔に上顎骨腫瘍切除術を施行した。サージカルマージンは5mmに設定した。切除後の上顎洞と一部交通した欠損部に頬脂肪体有茎移植を行った。〈図-4〉 摘出標本は、33×22×



ミラー像

図-1 初診時口腔内所見

右側上顎大白歯部顎堤粘膜に30×25mm大の境界明瞭なやや弾性硬の有茎性腫瘤を認めた。

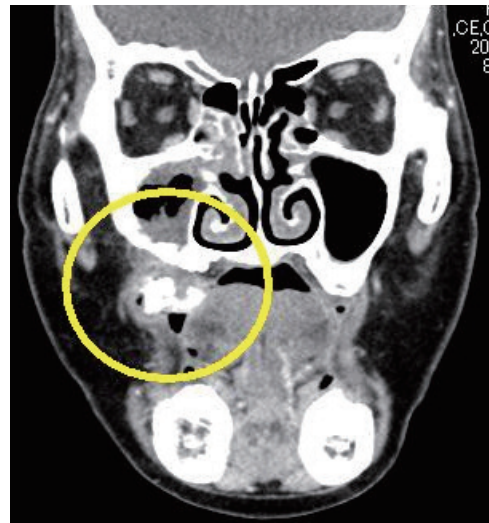
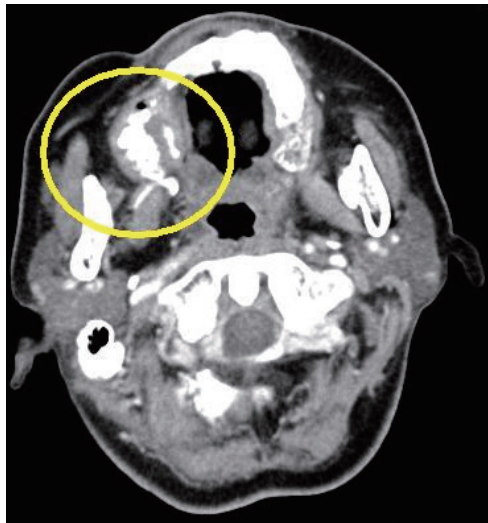
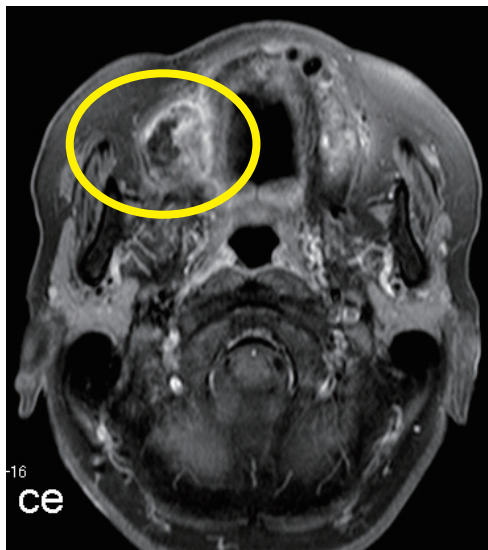


図-2 造影CT所見

最大径30mm大の上顎骨吸収を伴う右側上顎歯肉腫瘍を認めた。



a | b

図-3 造影MRI所見

a) T1強調像 b) T2強調像

右側上顎に最大30mm強の歯肉腫瘍を認めた。

T1強調像で中等度信号、T2強調像で辺縁リング状に高信号を示す。

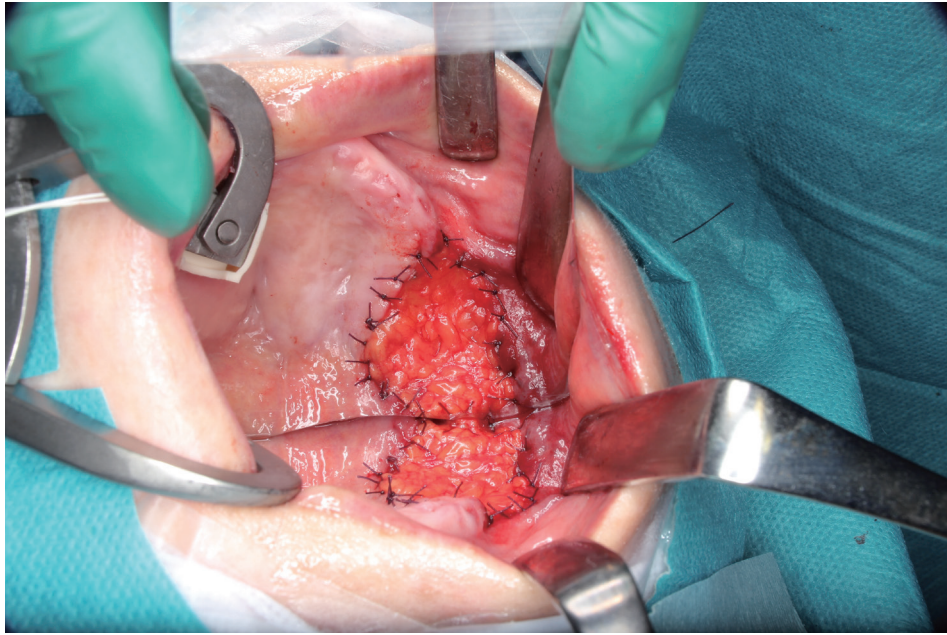


図-4 手術所見

上顎洞と一部交通した欠損部に頬脂肪体有茎移植を行った。

30mmの充実性腫瘤病変であった。

病理学的検査所見：錯角化性の重層扁平上皮に被覆され、上皮下には腫瘤全体に線維性結合組織のびまん性の増生が認められ、腫瘤表層では大小不規則な骨様硬組織の形成が認められた。硬組織形成を伴う領域では、辺縁にシャープ線維を伴うセメント質様硬組織が認められた。また、菲薄化した重層扁平上皮に覆われた表面不整な有茎性の結節状病変が既存の骨組織を含め一塊として切除されていた。〈図-5-a〉表層部では、紡錘形細胞が豊富に観察され、大小不規則な硬組織形成を伴っていた。〈図-5-b〉球状を呈する硬組織の辺縁は放射状にシャープ線維をみるセメント質様硬組織からなった。〈図-5-c〉豊富な細胞を封入する線維骨の形成も確認された。〈図-5-d〉

病理診断：peripheral cemento-ossifying fibroma (epulis osteoplastica)

治療後経過：術後10日目で軽快退院となり、その後は外来にて経過観察を行った。術後1か月程度で創部の上皮化を認め、以降は半年ごとに経過観察を行い、現在術後6年経過したが再発の兆候はなく、義歯装着も可能で経過は良好である。〈図-6〉

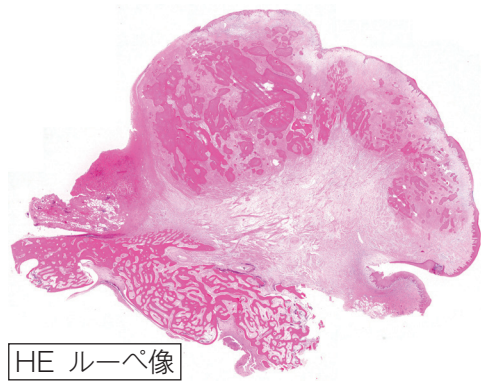
【考察】

エプーリスは、慢性的な刺激や炎症によって歯肉に発生する反応性の増殖物である⁽¹⁾。病理組織学的には肉芽腫性、線維性、血管腫性、線維腫性、骨形成性などに分類されており、このうち、骨形成性エプーリスは線維性組織の中に硬組織形成を伴うものとされている⁽²⁾。

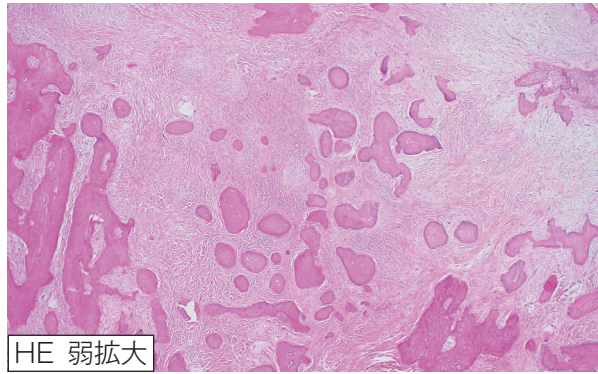
今回の病理診断結果である、peripheral cemento-ossifying fibroma は欧米での腫瘍性病変の名称であるが、本邦においては一般的に骨形成性エプーリス (epulis osteoplastica) の総称で呼ばれている⁽³⁾。

全エプーリスのうち骨形成性エプーリスの発生頻度は7.8~19%と報告されている^(1,2,4-6)。一般的にエプーリスは20~50代に好発するとされているが^(1,7-9)、骨形成性エプーリスに限ってみると20~70代と幅広い年齢層で認められている^(1,10-13)。また、骨形成性エプーリスの再発率は8.9~20%と報告されており比較的高い⁽¹⁴⁻¹⁶⁾。

エプーリス内における硬組織形成の要因に関しては、著明な炎症の存在下に、幼若な間葉組織中の未分化な間葉細胞が化生した説^(17,18) や、石灰化あるいは骨化をとまなうエプーリスの75%に潰瘍が生じるとし、機械的刺激により潰瘍化した上皮組織が治癒



HE ルーペ像

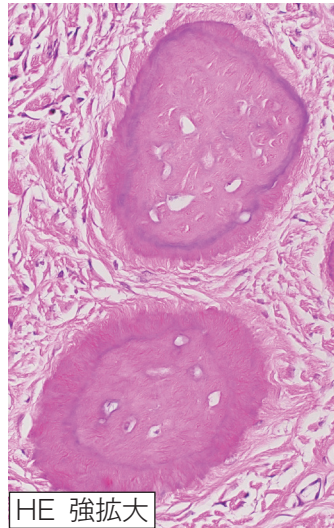


HE 弱拡大

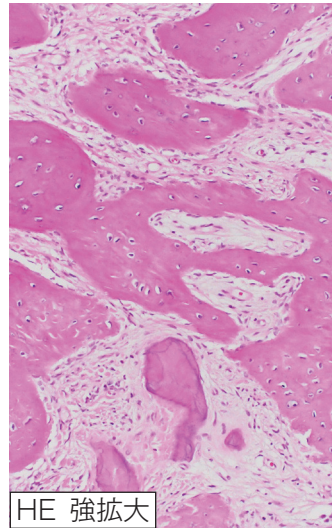
a | b

図-5 病理学的検査所見

- a) 菲薄化した重層扁平上皮に覆われた表面不整な有茎性の結節状病変が、既存の骨組織を含め一塊として切除されている（ルーペ像）。
- b) 表層部では、紡錘形細胞が豊富に観察され、大小不規則な硬組織形成を伴う（弱拡大）。



HE 強拡大



HE 強拡大

c | d

図-5 病理学的検査所見

- c) 球状を呈する硬組織の辺縁には放射状にシャープピー線維をみるセメント質様硬組織からなる（強拡大）。
- d) 強拡大：豊富な細胞を封入する線維骨の形成も確認される（強拡大）。



ミラー像

図-6 術後口腔内所見

術後6年を経過したが、創部は上皮化して画像での精査も含めて再発の兆候はなく、経過良好である。

する過程で石灰化や骨化を伴いつつ線維組織を形成した説^(1,19,20)、歯周組織中にアルカリフォスファターゼ活性の高い細胞が存在し、歯周組織の細胞が局所的あるいは全身の因子により骨芽細胞に分化し骨組織を形成した説^(1,21)などが挙げられている。

本症例では右側上顎は歯牙欠損し、部分床義歯を以前より装着していた。長期間歯科受診をしておらず義歯不適合のまま経過した可能性が考えられる。初診時に腫瘍の潰瘍形成を認めており、本症例における硬組織形成の要因としては、炎症に伴い間葉細胞が化生した説、あるいは潰瘍の石灰化や骨化に伴いつつ線維芽細胞が成熟し線維性組織となる説が示唆された。

一方、頬脂肪体有茎移植術は、1977年に初めてEgyediによって口腔腫瘍切除術後の欠損の修復に用いられた⁽²²⁾。頬脂肪体は通常の皮下脂肪と比較して可塑性に富んでおり、多少の圧迫や、伸展に対して崩壊することなく変形できる構造であることが特徴である⁽²³⁾。さらに血管が豊富に分布しており、頬脂肪体の血液循環が効率よく行われている⁽²³⁾。頬脂肪体は切除創を利用して容易に得られ、手術侵襲が少ないこと、瘻孔閉鎖や骨面の被覆が可能であり、術後の疼痛が少ないことが利点とされている⁽²²⁾。また、移植後速やかに肉芽組織に置換され、1週間後に上皮化が開始、移植6週間後で上皮化がほぼ完了するとされている⁽²⁴⁾。本症例でも術後1か月程度で創部の上皮化を認めた。また、移植後の脂肪は癒痕化し硬くなり、義歯の安定が得やすい⁽²³⁾。本症例でも術後安定して義歯を使用できるようになった。一方で、脂肪組織の結合が緩く緊張が加わると血行が悪くなる、有茎であるため到達距離に限界がある、骨欠損が大きいときは固定が困難である、有茎部の歯肉頬移行部が浅くなる等の欠点も指摘されている⁽²³⁾。頬脂肪体の利点・欠点を踏まえつつ、症例に適した使用法を検討すべきと考えられるが、今回は頬脂肪体有茎移植を行い、有用であった。

【結語】

今回われわれは右側上顎の顎堤粘膜に発生した骨形成性エプーリスに対して上顎骨腫瘍切除術を行い、開洞部を含めた欠損に頬脂肪体有茎移植を行った1例を経験したため、若干の文献的考察を加え報告した。

謝辞

稿を終えるにあたり、本症例の病理診断にご助言をいただきました、鶴見大学歯学部附属病院病理診断科伊藤由美先生に深謝いたします。

【参考文献】

- 1) 石戸克尚, ほか. 上顎歯肉に発生した巨大な骨形成性エプーリスの1例. 口腔腫. 33 : 55-60, 2021.
- 2) 石川梧朗, 秋吉正豊. 口腔病理学Ⅱ, 改訂版, 永末書店, 京都, 229-240, 1982.
- 3) 傳田祐也, ほか. 上顎に発生した巨大な骨形成性エプーリスの1例. 日口外誌. 57 : 553-557, 2011.
- 4) 石田武, ほか. エプーリスの分類と自験例160例の集計観察. 口科誌. 30 : 14-23, 1981.
- 5) 空閑裕紀, ほか. 下顎臼歯部歯肉に生じた巨大な骨形成性エプーリスの1症例. 口腔腫瘍15 : 31-36, 2003.
- 6) Lee, K.W. The fibrous epulis and related lesions. Granuloma Pyogenicum, 'Pregnancy tumor', fibro-epithelial polyp and calcifying fibroblastic granuloma. A clinico-pathological study. Periodontics 6 : 277-292, 1968.
- 7) 好士和夫. エプーリスの臨床的ならびに組織学的研究. 口病誌. 26 : 1666-1682, 1959.
- 8) 張丕明. 本学における最近6年間のエプーリス患者の臨床統計的観察. 歯学58 : 212-221, 1970.
- 9) Kenney, J.N., et al. Comparison between the peripheral ossifying fibroma and peripheral odontogenic fibroma. J Oral Maxillofac Surg 47 : 378-382, 1989.
- 10) 川崎五郎, ほか. エプーリスの臨床統計学的観察およびいわゆる骨形成性エプーリスについて. 口科誌. 45 : 80-85, 1996.
- 11) 岩崎弘治, ほか. エプーリス63例の臨床的観察. 日口外誌. 22 : 332-337, 1976.
- 12) 坂崎未沙子, ほか. 骨形成性エプーリスの1例. 愛院大歯誌. 52 : 273-279, 2014.
- 13) Gardner, D.G. The peripheral odontogenic fibroma : An attempt at clarification. Oral Surg Oral Med Oral Pathol 54 : 40-48, 1982.
- 14) Amit Kumer Mishra, Rahul Maru. Peripheral

cemento-ossifying fibroma : A case report with review of literature : 128-133, 2013 ;

- 15) Bhaskar SN, Jacoway JR. Peripheral fibroma and peripheral fibroma with calcification : report of 376 cases.J Am Dent Assoc : 1312-1320, 1966.
- 16) Eversole LR, Rovin S. Reactive lesions of the gingiva.J Oral Pathol : 30-38, 1972.
- 17) 森恵造, ほか. 骨形成性エプーリスの1症例. 日口外誌34 : 1399-1405, 1988.
- 18) 馬場信行, ほか. 顔貌変形をきたした巨大な骨形成性エプーリスの1例. 口科誌. 48 : 92-96, 1999.
- 19) Southam,J.C.Vekataraman,B.K.Calcification and ossification in epulis in man(excluding giant cell epulis). Arch Oral Biol18 : 1248-1253, 1973.
- 20) 岡上正裕, ほか. エプーリスの発生機序に関する研究2. 硬組織形成性エプーリスの病理組織学的検討. 日大歯学 74 : 824-831, 1998.
- 21) 徳岡敏一, ほか. 骨形成性エプーリスの石灰化について. 日口外誌 38 : 114-118, 1992.
- 22) 嶋香織, ほか. 口腔癌切除後の欠損に対する頬脂肪体有茎移植術. 日口外誌46 : 433-436, 2000.
- 23) 野澤亜希子, ほか. 頬脂肪体の構造と血管分布に関する組織学的観察. 口病誌69 : 128-138, 2002.
- 24) 伊東大典, ほか. 頬部脂肪体有茎移植による口蓋腫瘍切除後の再建 : 症例報告と文献的考察. Dental Medicine Research 28 : 26-29, 2008.

ダブルルーメンチューブ挿管による声門下狭窄の1例

藤枝市立総合病院 耳鼻いんこう科

菅原康介、丹羽 彩、森田 祥

【要約】

70代女性が縦隔腫瘍摘出術で35Fr左用ダブルルーメンチューブ（DLT）を用いた挿管後、術後4日目に進行性の声門下狭窄を発症し緊急気管切開を要した。DLTは外径が大きく材質が硬いため、特に高齢女性では声門下狭窄のリスクが高い。過去の報告でも全例に挿管時抵抗があり、保存的治療では改善せず緊急気道確保が必要となった。本症例から、DLT使用後の声門下狭窄には早期対応が重要であることが示唆された。

はじめに

ダブルルーメンチューブ（double-lumen tube：以下、DLT）は、胸部外科手術において分離肺換気が必要な症例に広く用いられている挿管チューブである。今回、縦隔腫瘍手術においてDLTを用いた術中呼吸管理を行った症例で、術後1日目に声門下狭窄を発症し、気管切開を要した1例を経験した。若干の文献的考察を加えて報告する。

症例

症例：70代女性。身長161cm、体重51kg。

主訴：挿管手術後の嘔声。

既往歴：脂質異常症、白内障、非結核性抗酸菌症。

喫煙・飲酒歴：なし。

現病歴：X-1年11月の健康診断にて胸部異常陰影を指摘され、当院呼吸器内科を受診した。CT検査にて前縦隔に59×31×19mmの嚢胞性病変を認め、胸腺嚢胞が疑われ、呼吸器外科にてロボット支援下前縦隔腫瘍摘出術の方針となった。術前に嘔声などの気道症状は認めなかった。

X年2月、仰臥位での右側外側アプローチによるロボット支援下前縦隔腫瘍摘出術を施行した。手術時間は1時間28分、麻酔時間は2時間46分であった。35Fr左用DLTを使用し、挿管時に抵抗はあったが1回の試行で挿管可能であった。手術は予定通り終了し、抜管した。抜管直後に嘔声を認めたが、気道閉塞症状はなく病室へ帰室となった。

術後1日目（POD1）、酸素1L投与下でSpO₂ 98%。

嘔声は軽快傾向であったが残存し、当科に紹介受診となった。喉頭内視鏡検査にて声門下に浮腫状の狭窄を認めた（図1）。呼吸困難はなく、患者の自覚的には嘔声も軽快傾向とのことで経過観察とした。

臨床経過：POD2に、呼吸苦なく酸素投与は終了となり、酸素投与無しでSpO₂ 98%を維持していた。POD3には、軽度の喘鳴を認めていたが、呼吸苦はなかった。

POD4、患者は呼吸時に著明な吸気性喘鳴を認め呼吸苦の訴えもあり、再度呼吸器外科から当科に診察依頼となった。喉頭内視鏡検査で声帯直下に白苔の付着を認め、POD1に狭窄していた部位には白苔のような浮腫状の粘膜により狭窄の進行を認め、〈図2-a,b〉、窒息の危険があると判断し、同日緊急気管切開を施行した。



図1 術後1日目の喉頭所見。声門下に狭窄を認めた。



図 2-a

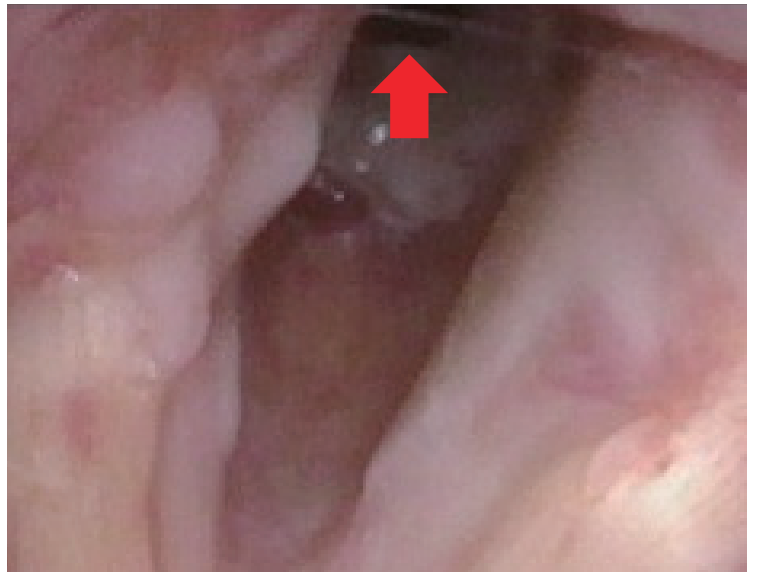


図 2-b

図 2 術後 4 日目の喉頭所見。

a 声門下の狭窄の進行を認めた。

b わずかに気管尾側に交通していた (矢印)。



図 3 気管切開後の経過。

a 気管切開後 3 日目、声門下狭窄は大きな変化なし。

b 気管切開後 7 日目、声門下に発赤を認めるが狭窄は改善傾向となった。

c 気管切開後 17 日目、声門下狭窄はほぼ改善した。

気管切開後の声門上と声門下から観察した。声門下の狭窄は徐々に改善した。

POD8（気管切開4日後）より狭窄の改善を目的としてコハク酸ヒドロコルチゾンナトリウムの点滴投与およびエピネフリン吸入を開始した。声門下の狭窄は〈図3〉に示すように徐々に改善した。POD22（気管切開後18日目）に気管カニューレを抜去した。気管切開後31日目、気管孔がピンホールで残存したため、局所麻酔下で気管孔閉鎖術を施行した。POD42（気管切開後38日目）に退院となった。

考察

今回使用した35Fr左用DLTは、2本のチューブが接合された構造で、断面は楕円形かつ材質が硬く、外径が大きい。また、気管支挿入のための角度が付与されており、気管支内カフを有する（図4）⁽¹⁾。チューブのカフが気管分岐部や葉気管支を閉塞させず安定して留置できる主気管支の安全域は左10mm、右5mmとされており、安全域の広い左用DLTが90～95%で使用されている⁽²⁾。女性には35Fr（外径約10.5mm）が多く選択される⁽³⁾。

DLT挿管による声門下狭窄について、2011年～

2022年の12年間で本邦で報告された13例と本症例について、性別・年齢・身長・体重・BMI・手術時間・麻酔時間・挿管時の抵抗性の有無などについて〈表1〉にまとめた。

過去の報告例はいずれも高齢女性であり、低身長であったが、体重は身長に対して標準範囲内であった。本症例は、年齢に比して平均より身長は高めであったが、それ以外の背景因子（高齢・女性）については過去の報告と同様であった。また、手術時間および麻酔時間に関しても、過去の報告と大きな差はなかった。

本症例を含む全14例で、挿管時に何らかの抵抗感があったことが共通して認められている。なお、〈表1〉に示す通り挿管時の抵抗を理由に細径のチューブへ変更された症例が13例中7例存在したが、それらの症例も含めて術後4日以内に声門下狭窄の所見が出現し、ステロイド投与などの保存的治療にもかかわらず、最終的には全例で緊急の気道確保が必要となった。

後天性声門下狭窄は、声帯下部（輪状軟骨周囲）に発生する狭窄であり、主な原因は長期挿管、気管切開後のカニューレ不適合、外傷などである⁽⁴⁾。挿管に起

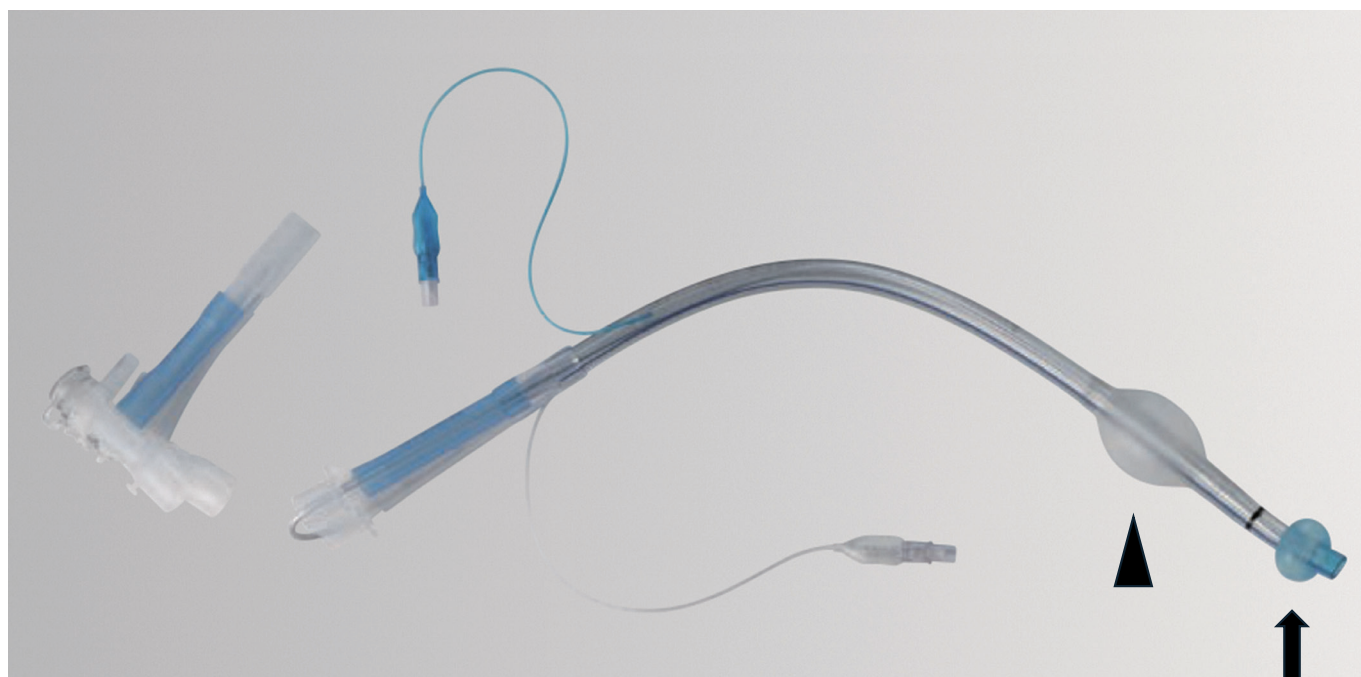


図4（エム・シー・メディカル株式会社ホームページより引用）

35Fr左用ダブルルーメンチューブ。

（パーカーエンドブロンコ気管支チューブ®;日本メディカルネクスト）。

2本のチューブが接合された構造で、断面は楕円形かつ材質が硬く、外径が大きいという特徴がある。
矢頭：気管内カフ。 矢印：気管支内カフ。

表1 本邦におけるDLT挿管後声門下狭窄の報告例。症例14は本症例である。

症例	報告者	報告年	年齢	性別	身長	体重	BMI	DLTサイズ径 (Fr)	挿管時抵抗性	手術時間	麻酔時間	声門下狭窄 診断時期	気道確保前 ステロイド投与	ステロイド投与後 狭窄の改善の有無	気道確保法
1	新庄ら9)	2010	76	女性	155.8	52.1	21.5	35	あり	1h35m	2h20m	POD1	あり	無し	気管切開
2	伊藤ら12)	2013	81	女性	148	46	21	35	あり	0h59m	1h35m	POD3	あり	無し	気管切開
3	島垣ら15)	2016	73	女性	146	42	19.7	35→32→28※	あり	記載無し	記載無し	POD2	あり	無し	輪状甲状間膜切開
4	坂田ら14)	2017	73	女性	記載無し	記載無し	記載無し	35→32※	あり	記載無し	4h13m	POD1	あり	無し	気管切開
5	林ら8)	2018	83	女性	149.3	57.5	26.1	35→32※	あり	4h27m	記載無し	POD1	あり	無し	挿管
6	瀧脇ら17)	2018	81	女性	142	47	23.3	35	あり	記載無し	2h14m	POD1	あり	無し	気管切開
7	高橋ら16)	2019	81	女性	146.1	51.3	23.9	35→32※	あり	4h50m	5h41m	POD2	あり	無し	気管切開
8	大友ら13)	2019	78	女性	145	57	27.1	35→32※	あり	2h46m	記載無し	POD3	あり	無し	気管切開
9	田中ら11)	2019	85	女性	139	48	24	35→32※	あり	記載無し	記載無し	POD4	無し	-	気管切開
10	米井ら10)	2020	83	女性	144.1	48.7	23.4	35	あり	3h24m	4h40m	POD3	あり	無し	気管切開
11	福井ら19)	2020	80	女性	143.6	45.4	22.2	35	あり	1h07m	2h00m	POD2	無し	-	モニタック留置
12	勢井ら18)	2021	80	女性	144.1	48.7	20.9	32→28※	あり	記載無し	記載無し	POD2	記載無し	-	気管切開
13	中角ら3)	2021	70	女性	152.1	46.3	20.2	35	あり	1h44m	2h22m	POD1	あり	無し	気管切開
14	本症例	2023	76	女性	160	46.7	18.2	35	あり	1h28m	2h46m	POD1	無し	-	気管切開

※挿管困難のため 縦径のDLTに変更

表2 声門、声門下、気管横径の男女比

	男性	女性
声門横径	4.3mm	3.9mm
声門下横径	13.7mm	9.0mm
気管横径	15.0mm	10.2mm

因する狭窄では、気管径に対して太いチューブが使用された際に、気管粘膜の毛細血管還流障害が生じ、虚血となり浮腫を生じ、潰瘍形成を経て、軟骨の炎症や肉芽、癒痕形成により狭窄へ進展することが示唆されている⁽⁵⁾。

通常のシングルルーメンチューブによる挿管性声門下狭窄の発症頻度は0.005%と報告され、通常、抜管直後～2時間以内に始まり、8時間以内にピークとなり、24時間程度で軽快することが多いとされる。しかし抜管後4日目の発症例も報告されている⁽⁶⁾。リスク因子としては、高齢、女性、低栄養、術中の過量補液などが挙げられている⁽⁷⁾。

DLTによる挿管性声門下狭窄の発症頻度は0.05～0.19%とされている⁽³⁾。〈表2〉に示すように声門下横径は気管横径の約80～100%であり⁽⁸⁾、生理的狭窄部であるため、チューブとの接触リスクが高い。渡辺らはDLT使用症例1552例中、術後に声門下浮腫を認め

たのは6例(0.38%)であり、そのうち2例はステロイド吸入で改善したが、残り4例は気管切開を要したと報告している⁽⁹⁾。DLT挿管後の声門下狭窄のリスク因子として、女性、高齢、低身長、挿管時の抵抗性が挙げられる⁽¹⁰⁾。本症例は身長160cmと低身長ではなかったが、女性・高齢・挿管時抵抗性ありと、4項目中3項目に該当していた。DLT抜管後数日以内に発症する進行性の声門下狭窄に対しては、迅速な気道確保が不可欠である。

まとめ

縦隔腫瘍手術においてDLTを用いた症例で、術後に声門下狭窄を発症した1例を経験した。保存的治療にもかかわらず、進行性の気道狭窄が疑われる場合、時機を逸することなく迅速な気道確保が極めて重要である。

参考文献

- 1) J L Benumof, B L Partridge, C Salvatierra. Margin of safety in positioning modern double-lumen endotracheal tubes. *Anesthesiology* 67(5): 729-38, 1987.
- 2) Shah, Shagun Bhatia; Hariharan, Choosing the Correct-Sized Adult Double-Lumen Tube: Quest for the Holy Grail *Annals of Cardiac Anaesthesia* 26(2): 24-132, 2023.
- 3) 花崎元彦. ダブルルーメンチューブ使用に伴う合併症と限界—チューブの特性をよく知り, 丁寧な扱いと細心の注意. *LiSA*. 25(5): 552-556, 2018.
- 4) 守本倫子. 声門下狭窄症. *JOHNS* 32(4): 517-520, 2016.
- 5) 中角美穂, 太田伸男, 舘田豊ら. ダブルルーメンチューブによる声門下狭窄の1例. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 94(7): 591-596, 2022.
- 6) 富永晋二, 加藤喜久, 都留佑子ら. 頸部郭清術後長時間経過してから発症した声門下浮腫に緊急気管挿管を行った1症例. *日歯麻誌* 34(5): 518-520, 2006.
- 7) 安部真理, 田上正, 高群博之ら. 超高齢者において気管内チューブ抜管直後に生じた致死的喉頭浮腫の1症例. *麻酔* 45: 331-333, 1996.
- 8) 佐藤公則, 立石修, 無敵剛介ら. 気管内チューブの適正サイズに関する形態学的検討. *麻酔* 37(11): 1388-1393, 1988.
- 9) 渡辺光, 金内直樹. ダブルルーメンチューブ抜管後の声門下浮腫症例の臨床的検討. 第71回日本胸部外科学会定期学術集会抄録集 P12-8: 919, 2018.
- 10) 林美鈴, 幾世橋美由紀, 淵辺誠ら. ダブルルーメンチューブを使用し術後3日目に声門下狭窄をきたした1例. *日臨麻会誌* 138(1): 19-24, 2018.
- 11) 新庄泰孝, 安楽和樹, 米井昭智. 気管挿管が原因で上気道狭窄を来し気管切開術を要した2症例. *倉敷中央病院年報* 73巻: 117-121, 2010.
- 12) 米井彰洋, 森山裕一, 市成秀樹. 原発性肺癌術後3日目に高度な声門下狭窄をきたした1例. *気管支学* 42: 529-533, 2020.
- 13) 田中克弥, 関久美子, 片岡濡, 中西侑子ら. ダブルルーメンチューブを使用し, 術後4日目に声門下狭窄を発症し, 気管切開に至った1症例. *日臨麻会誌* 39: S310, 2019.
- 14) 伊藤洋介, 中田陽子, 中村咲子ら. 二腔チューブ使用後, 架橋状肉芽形成により声門下狭窄を来した1症例. *麻酔* 62(8): 946-948, 2013.
- 15) 大友純, 柴田義浩, 小林広典. 二腔チューブ挿入後に両側声帯麻痺を来し緊急気管切開を施行した1症例. *麻酔* 70(2): 134-137, 2021.
- 16) 坂田省三, 出嶋仁, 有村隆明ら. 手術時の気管挿管が原因で声門下狭窄を来し気管切開を要した1例. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会・プログラム・抄録集. 2017.
- 17) 島垣智成, 岡本龍郎, 諸富洋介ら. 肺切除術後2日目に認めた声門下狭窄による心肺停止に対して救命できた1例. *福岡医誌* 107(7): 136-140, 2016.
- 18) 高橋亮介, 鈴木政美. ダブルルーメンチューブ挿管後に発症した声門下狭窄の1例. *頭頸部外科* 29: 197-201, 2019.
- 19) 滝脇正人ら. 二腔チューブ使用後に生じた声門下の狭窄例. *耳鼻臨床* 111: 547-550, 2018.
- 20) 勢井洋史ら. ダブルルーメンチューブによる気管内挿管後の高度声門下浮腫例. *耳鼻臨床* 114: 145-149, 2021.
- 21) 福井麻里子, 武川栞, 松永健志ら. 肺癌術後2日目に声門下狭窄をきたした1例. *日本呼吸器外科学会雑誌* 35(5): 559-564, 2021.

当院における胸部領域での自動輪郭作成精度の評価

藤枝市立総合病院 診療技術部 放射線科¹⁾、診療部 放射線治療科²⁾

大川剛史¹⁾、河井淑裕¹⁾、坂下 誠¹⁾、松岡靖彦¹⁾、
佐藤恵梨子¹⁾、山田暢子¹⁾、小杉 崇²⁾

【要約】

非小細胞肺癌に対する放射線治療では腫瘍縮小に伴い治療計画の変更が行われるが、病変の再定義に労力を要する。近年、DIR (Deformable Image Registration) による自動輪郭作成機能を搭載したソフトウェアが開発され高い自動輪郭抽出能が期待されている。本研究では、CT (Computed Tomography) 画像における病変の輪郭に対してDIRによるプロパゲーションを適用した症例を対象に、その精度を後ろ向きに評価した。評価方法は、放射線腫瘍医による手動輪郭描出とDIRによる自動輪郭抽出との一致度をDSC (Dice Similarity Coefficient) にて評価した。DSCの中央値は0.82であり、軽微な修正で臨床使用が可能であると判断された。以上より、DIRによるプロパゲーションは、放射線治療計画における医師の作業負担の軽減に寄与することが期待される。

1. 背景 (Introduction)

非小細胞肺癌の根治放射線治療は、30回もしくは33回で実施されることがほとんどであり、治療期間が長い。この長い治療の過程において、多くの症例では腫瘍およびリンパ節などターゲットの縮小、体重減少などの変化を生じる。これにより、標的体積 (TV:target volume) や危険臓器 (OAR:organs at risk) の大きさ、形状、位置などに大きな変化をもたらす可能性がある。¹⁾ このため、実際にTVに投与されるべき線量が投与されないことやOARに余分な線量が照射される可能性があり、その際には再治療計画が必要となる。¹⁾²⁾³⁾ 適応放射線治療 (ART:adaptive radiation therapy) は、治療期間中に取得した画像を用いて当初の治療計画を修正することによって、解剖学的変化への対応が可能となる。⁴⁾⁵⁾ 当院では、20回目の照射終了時において治療計画の変更を実施するscheduled ARTを採用しており、解剖学的変化への対応を図っている。しかし、この治療計画の変更におけるTargetの輪郭描出 (コンツールリング) 作業を、すべての症例で手動により実施することは、非常に多くの時間と労力を要する。さらに、TVは最初に決定した医師の判断が反映されるため、その特性を加味した自動輪郭作成が可能であれば、ART実施における効率性と一貫性の向上が期待される。

近年、放射線治療分野におけるこれら輪郭描出にお

いて、非剛体位置合わせ (DIR:deformable image registration) を用いた技術が急速に発展してきている。DIRは、2つの画像間における臓器の変形 (収縮、拡張、移動など) を考慮し、画像を変形させて位置合わせ (レジストレーション) を実施する技術である。この技術を利用して、ある基準画像に対して手動で定義された輪郭を他の画像に変形してマッピングする処理をプロパゲーションと呼び (図1)、新たな画像における輪郭を自動で抽出することが可能となっている。⁶⁾ DIRは、画像内の特徴量をソフトウェア上で定量化し、数学的演算により画像を変形させて位置合わせを行うため、これらの演算は完全な位置一致を保証するものではなく、アルゴリズムの多くはブラックボックス化されている。そこで今回、我々は非小細胞肺癌において、ART目的に原発巣 (GTV:gross tumor volume) に対して、プロパゲーションした症例においてその精度を後ろ向きに評価した。

2. 方法 (Method)

本研究の対象は、2022年8月から2023年9月の期間に、当院において強度変調回転放射線治療 (VMAT: volumetric modulated arc therapy) を実施した非小細胞肺癌10症例を対象とした。すべての症例において、21回目 (40 Gy照射後) にscheduled ARTとして治療計画が変更され、治療計画変更用CT (boost CT)

放射線治療のためにはターゲットの設定が必要
放射線治療中に腫瘍は縮小するため、途中で再度のターゲット設定が必要

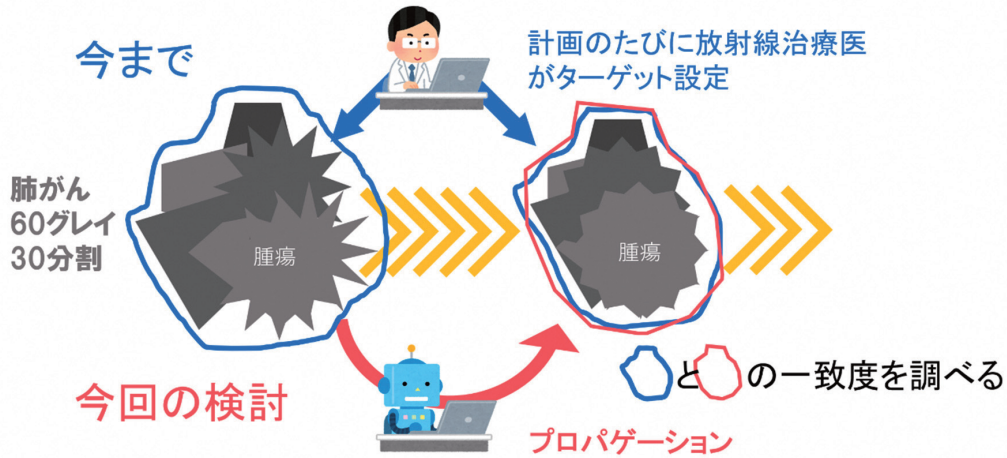


図 1. 本研究の流れ

表 1. 各症例の詳細

NO.	days	放射線腫瘍医の手動 コンツォーリング (cc)		reduction rate	DIRによる自動 コンツォーリング (cc)	DSC
		a) initial CT	b) boost CT			
1	35	180.7	144.7	19.9%	135.2	0.90
2	27	88.9	53.6	39.7%	60.5	0.78
3	32	6.4	5.1	19.9%	5.5	0.81
4	34	57.1	46.9	17.8%	49.7	0.91
5	28	10.8	11.4	-4.9%	10.0	0.86
6	28	76.9	40.8	46.9%	60.1	0.75
7	32	38.0	15.7	58.6%	26.4	0.74
8	34	55.6	63.6	-14.5%	58.9	0.81
9	29	32.1	21.4	33.3%	26.2	0.83
10	30	78.5	57.8	26.4%	69.9	0.89
最小値	27.0	6.4	5.1	-14.5%	5.5	0.74
最大値	35.0	180.7	144.7	58.6%	135.2	0.91
中央値	31.0	56.3	43.9	23.2%	54.3	0.82
平均値	30.9	62.5	46.1	24.3%	50.2	0.83

画像に対して、DIRによるプロパゲーションが実施された。初回治療計画用CT (initial CT) 画像および boost CT画像におけるコンツォーリングには、Elekta社製治療計画装置Monaco version 6.1.2を使用した。評価項目としては initial CTからboost CTまでの期間、原発巣の肉眼的腫瘍体積(GTV)、GTVの体積縮小率

とした。加えて、GTVに対し、放射線治療専門医1名がコンツォーリングした関心領域(ROI: region of interest)と、DIRによりプロパゲーションされたROIとの一致度を評価するため、ダイス類似度係数(DSC: Dice Similarity Coefficient)を算出した。またDSCと体積縮小率との相関についても評価した。

DSCは以下の式に基づき算出した。⁷⁾

$$DSC = \frac{2 \cdot (V_{Dr} \cap V_{auto})}{V_{Dr} + V_{auto}} \cdot \cdot \cdot (1)$$

統計解析はEZR ver.1.50(Saitama Medical Center、Jichi Medical University, Saitama, Japan) を用いて行った⁸⁾。本研究は、当院倫理委員会の承認を得て実施された(承認番号: R05-38)。

3. 結果 (Result)

Initial CTからboost CTまでの期間は中央値31日(範囲: 27~35日)であった。体積縮小率は中央値23.2%(-14.5~58.6%)であった(表1)。DSCの中央値(範囲)は0.82(0.74~0.91)であった(図2)。また、体積変化率とDSCとの相関関係は、ピアソンの相関係数 $r=-0.572$ であり中等度の相関が認められた。(図3)

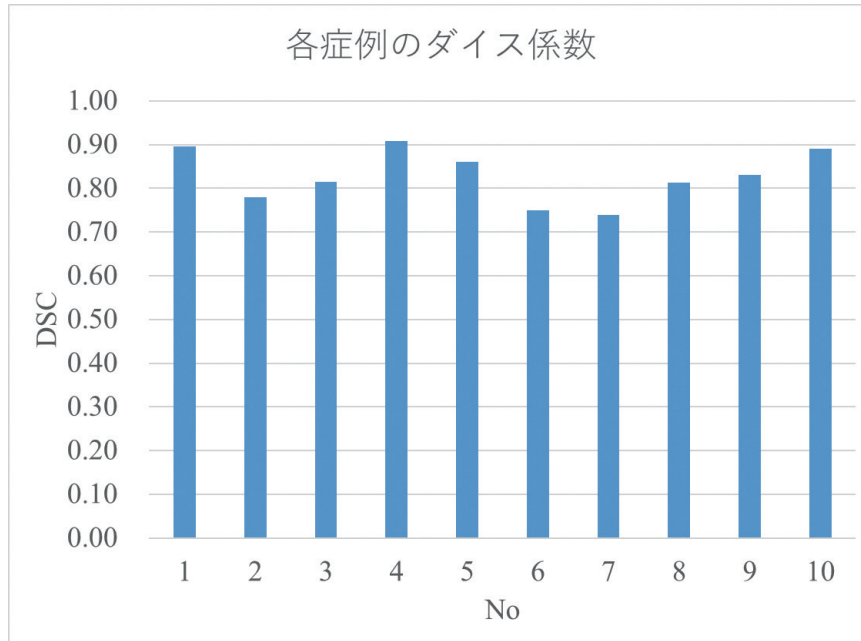


図2. 各症例におけるGTVのDSC

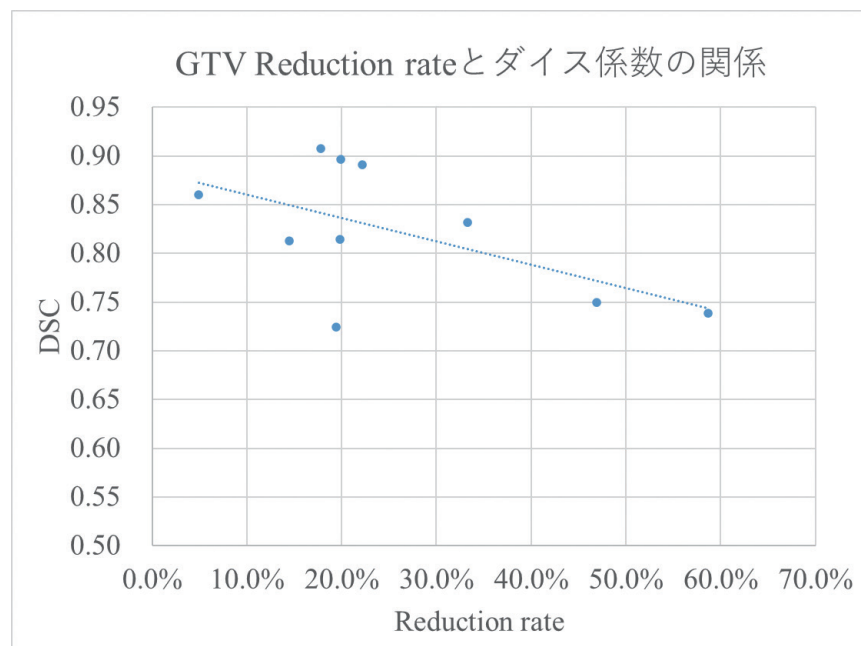


図3. GTVの体積縮小率とDSCとの相関

4. 症例

4-1. 症例1 (図4)

本症例は、左下葉肺腺癌(cT3N3M0、Stage IIIC)に対して総線量60Gy/30回で根治的放射線治療を実施した。体積縮小率は17.8%であり、DSCは0.91と良好な一致率を示した。a) Initial CTおよび b) boost CTにおいて放射線腫瘍医が手動描出したROI(青)、c) DIRによりプロパゲーションさせた自動コンツールのROI(赤)と、手動コンツールのROI(青)を比較し、視覚的にも一致していることを確認した。

4-2. 症例2 (図5)

本症例は、左下葉肺腺癌(cT2bN2M0、cStage IIIA)に対して、総線量 60 Gy/30回で根治的放射線治療を実施した。体積縮小率は58.6%であり、DSCは0.74で

あった。a) Initial CTにおける放射線腫瘍医の手動コンツールリングでは、腫瘍に一定のマージンを加えてROIが作成されていた。b) 一方、boost CTではマージンを加えず、CT画像上、solidな領域に対して手動でコンツールリングが行われていた。c) DIRによりプロパゲーションさせた自動コンツールのROI(赤)と、手動コンツールのROI(青)を比較したところ、自動コンツールリングではInitial CTで設定されたマージンが保持されたままであり、手動コンツールリングとの間に明らかな輪郭の不一致が認められた。この症例では、初回治療計画において、GTVに顕微鏡的な進展範囲を予測してマージンを加えた臨床標的体積(CTV: clinical target volume)相当のROIが用いられていた。一方、boost治療計画では、肉眼的に確認できるsolidな領域に対してROIが定義され、このROI定義の不一致が、一致率の低下を招いたと考えられた。

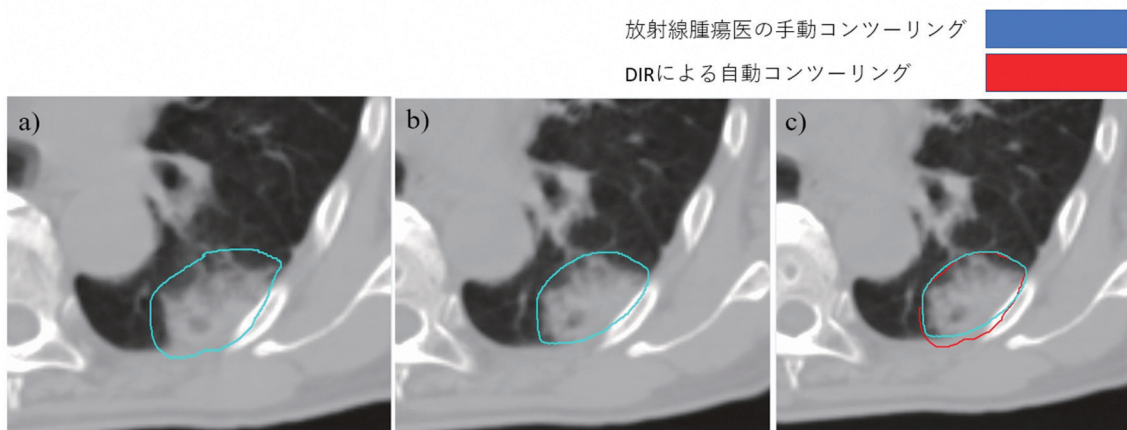


図4. 症例1. 左下葉肺腺癌 (cT 3 N 3 M 0 stage III C)

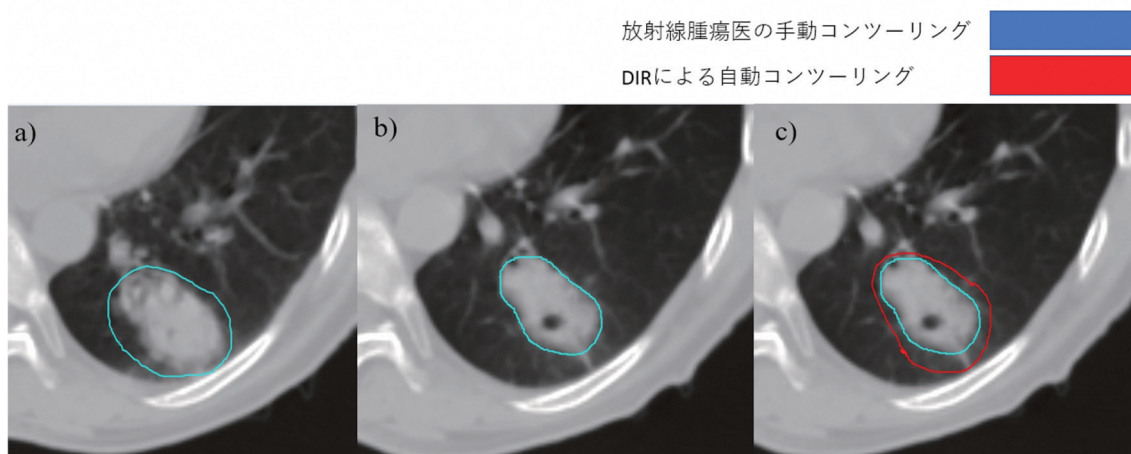


図5. 症例2. 左下葉肺腺癌 (cT 2 bN 2 M 0、cStagellIA)

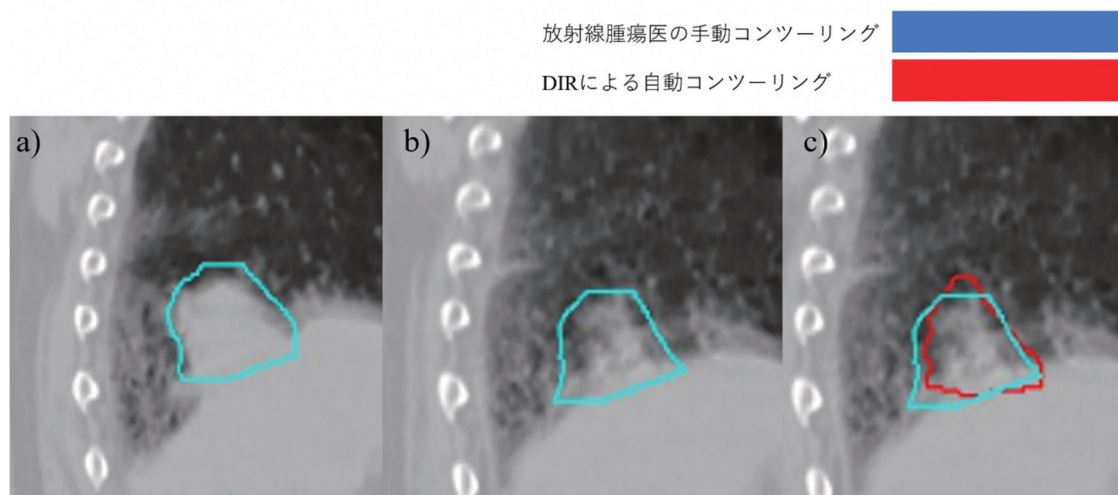


図6. 症例3. 左下葉肺腺癌 (cT2bN2M0、cStageIIIA)

4-3. 症例3 (図6)

本症例は、右下葉肺癌(cT2bN0またはN1M0、cStage IIAまたはIIB[未確定])に対し、総線量66 Gy/33回で根治的放射線治療を実施した。体積縮小率は-14.5%であり、放射線腫瘍医による手動コンツォーリングにおいてboost CT上のROIが拡大していた。DSCは0.81であった。a) Initial CTと比較して、b) boost CTでは腫瘍の縮小が認められた。腫瘍縮小に伴い辺縁が不明瞭化したことに加え、下葉病変であり呼吸運動の影響を受けやすく、腫瘍辺縁はさらに不明瞭となっていた。その結果、放射線腫瘍医による正確なコンツォーリングが困難であったことが予測される。一方で、c) DIRによる自動コンツォーリングは、initial CTの輪郭情報を忠実に再現していた。このことから、DIRによる自動コンツォーリングの導入は、Initial CTにおけるROIを参照可能とする点で有用であり、治療計画の一貫性を保つうえで客観的な指標にできる可能性が示唆された。

5. 考察

本研究では、非小細胞肺癌を対象に、GTVに対するDIRを用いたプロパゲーションの精度を評価した。長い治療期間中での腫瘍の形状の変化は、初めに設定された治療計画プランから逸脱する可能性があり、線量分布を再評価する必要がある。しかし、このためには、撮影された直近のCT画像において、再度コンツォーリングする必要があり、放射線治療医の負担とな

る。コンツォーリング作業を効率化する一つ的手段として、DIRによる自動コンツォーリングが注目されている。⁹⁾しかし、GTVなどの標的を対象としたDIRの精度評価に関する報告は少ない。Macchiaらの報告では、3種類のソフトウェアにおけるDIRによるプロパゲーションの精度を検証している。報告によれば、CTVのDSCが0.85-0.86であり、良好な結果を示していた。本研究の結果では、GTVのDSC中央値は0.82であり同等の結果を示した。本研究で使用したDIRは、画像の信号強度差を利用するアルゴリズムであり、肺と腫瘍との間に明瞭なコントラスト差が存在することから、良好な一致率が得られたと考えられる。

また、DSCと腫瘍体積の縮小率との間には中等度の相関が認められた。腫瘍の縮小率が大きい場合には、形状変化が複雑化することでプロパゲーション精度の低下が生じる可能性があり、十分な注意が必要である。また、本研究の症例にみられたように、initial CTとboost CTにおいてROIの定義に差異がある場合、DIRによる自動プロパゲーションでは放射線腫瘍医の意図を完全に反映することが難しい可能性がある。しかしながら、腫瘍境界が呼吸運動などによるアーチファクトの影響で不明瞭となる症例においては、DIRによってinitial CTのROIをboost CT上に自動的に転写・修正することで、客観性を保った輪郭抽出が可能となり、放射線腫瘍医の作業負担軽減や計画の一貫性確保に寄与することが期待される。

6. 結論

本研究では、非小細胞肺癌に対する放射線治療においてGTVのDIRによるプロパゲーション精度を評価した。その結果、放射線腫瘍医が定義しROIプロパゲーションによるROIとのDSCは0.82と高い一致を示し、先行研究と同等の結果が得られた。ただし、initial CTとboost CTにおいてROIの定義に差異がある場合においては、一致率が低く、DIRによる自動プロパゲーションでは放射線腫瘍医の意図を完全に反映することは困難であった。しかし、大多数の症例においては、DIRによって自動生成されたROIは軽微な修正のみで臨床使用が可能であり、医師の作業負担軽減に繋がるものと考えられた。

7. 図表

表 1. 各症例の詳細

- a) initial CT: initial CTにおけるGTV (cc)
- b) boost CT: boost CTにおけるGTV (cc)

図 1. 本研究の流れ

放射線腫瘍医による手動による輪郭描出(青)とDIRを用いたプロパゲーションによる輪郭描出(赤)との比較

図 2. 各症例におけるGTVのDSC

図 3. GTVの体積縮小率とDSCとの相関

図 4. 症例1. 左下葉肺腺癌(cT3N3M0 stageⅢC)

- a) initial CTにおける放射線腫瘍医の手動コン
ツールリング
- b) boost CTにおける放射線腫瘍医の手動コン
ツールリング
- c) boost CTにおける放射線腫瘍医の手動コン
ツールリング(青色)とDIRによる自動コン
ツールリング(赤色)

図 5. 症例2. 左下葉肺腺癌(cT2bN2M0、cStageⅢA)

- a) initial CTにおける放射線腫瘍医の手動コン
ツールリング
- b) boost CTにおける放射線腫瘍医の手動コン
ツールリング
- c) boost CTにおける放射線腫瘍医の手動コン
ツールリング(青色)とDIRによる自動コン
ツールリング(赤色)

図 6. 症例3. 左下葉肺腺癌(cT2bN2M0、cStageⅢA)

- a) initial CTにおける放射線腫瘍医の手動コン

ツールリング

- b) boost CTにおける放射線腫瘍医の手動コン
ツールリング
- c) boost CTにおける放射線腫瘍医の手動コン
ツールリング(青色)とDIRによる自動コン
ツールリング(赤色)

8. 参考文献

- 1) Castadot P et al. Adaptive radiotherapy of head and neck cancer. *Semin Radiat Oncol* 2010;20(2):84-93
- 2) Margriet Kwint et al. Intra thoracic anatomical changes in lung cancer patients during the course of radiotherapy *Radiotherapy Oncol* 2014;113(3):392-7
- 3) Guckenberger M, et al. Potential of adaptive radiotherapy to escalate the radiation dose in combined radiochemotherapy for locally advanced non-small cell lung cancer. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 2011;79(3):901-8
- 4) T Kataria, MD, et al. Adaptive radiotherapy in lung cancer: dosimetric benefits and clinical outcome *Br J Radiol* 2014; 87(1038): 20130643
- 5) Yinnan Meng et al. Adaptive intensity-modulated radiotherapy with simultaneous integrated boost for stage III non-small cell lung cancer: Is a routine adaptation beneficial? *Radiother Oncol* 2021;158:118-124.
- 6) 有村秀孝 放射線治療における Deformable Image Registrationの基礎 *J.MedPhy.*2019;39(1):2-6
- 7) 角谷 倫之ら, 「詳説 非剛体レジストレーション -放射線治療領域-」, 中外医学社,2020.12:62-65
- 8) Kanda, Y., (2013). Investigation of the freely available easy-to-use software 'EZR'for medical statistics. *Bone marrow transplantation* 2013;48(3):452-8.
- 9) Nicholas Hardcastle et al.A multi-institution evaluation of deformable image registration algorithms for automatic organ delineation in adaptive head and neck *Radiat Oncol* 2012 ;15:7:90.

- 10) La Macchia et al. Systematic evaluation of three different commercial software solutions for automatic segmentation for adaptive therapy in head-and-neck, prostate and pleural cancer Radiat Oncol 2012;18:7:160
- 11) Noriyuki Kadoya, PhD et al. International Journal of Radiation Oncology ,Adaptive radio therapy for advanced lung cancer ensures target coverage and decrease lung dose Multi-institutional validation study of commercially available deformable image registration software for thoracic images Int J Radiat Oncol Biol Phys 2016;96(2):422-431.

業績リスト

2023年（令和5年）

内科

《 論文 》

- 中澤浩二
町内会長奮闘記（その2）
志太メディカルニュース 576：13, 2023
- 中澤浩二
ニューールンベルクのマイスタージンガー
志太メディカルニュース 577：9, 2023
- 中澤浩二
消えたお墓
志太メディカルニュース 578：13, 2023
- 中澤浩二
ラジオ体操
志太メディカルニュース 579：17, 2023
- 中澤浩二
駅ピアノ
志太メディカルニュース 580：9, 2023
- 中澤浩二
認知症の治療としてのコンドロイチン
志太メディカルニュース 581：14, 2023
- 中澤浩二
虫さされ
志太メディカルニュース 582：13, 2023
- 中澤浩二
米寿翁の妄想
志太メディカルニュース 583：11, 2023
- 中澤浩二
早期老化症のエピソード
志太メディカルニュース 584：11, 2023

糖尿病・内分泌内科

《 学会発表 》

- 柴崎晃司, 内田玲子, 今井ゆき子, 向山拓矢, 芝田尚子,
松浦 駿, 森田 浩, 佐々木茂和
当科外来通院2型糖尿病患者における腎症とその進行
に關与する因子の検討
第66回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.5, 鹿児島県
- 今井ゆき子, 柴崎晃司, 内田玲子, 向山拓矢, 松浦 駿,
芝田尚子, 森田 浩, 佐々木茂和
強化インスリン療法中にデュラグルチドを新規導入
し、インスリンを減量・離脱できた症例の検討
第66回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.5, 鹿児島県
- 松浦 駿, 柴崎晃司, 内田玲子, 芝田尚子, 森田 浩
肥満2型糖尿病における加療1年間での体組成変化量
とHbA1c変化・脂質変化量の相関について
第66回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.5, 鹿児島県
- 柴崎晃司, 内田玲子, 今井ゆき子, 向山拓矢, 芝田尚子,
森田 浩, 佐々木茂和, 沖 隆
相対的副腎皮質機能低下症例における血清Naとアル
ドステロンに関する検討
第96回日本内分泌学会学術総会 2023.6, 名古屋市
- 今井ゆき子, 柴崎晃司, 内田玲子, 向山拓矢, 芝田尚子,
森田 浩, 佐々木茂和, 沖 隆
フルドロコルチゾンにて血清Na改善を認めた低Na血
症8例の検討
第96回日本内分泌学会学術総会 2023.6, 名古屋市
- 東 航平, 永田総一郎, 柴崎晃司, 内田玲子, 今井ゆき子,
向山拓矢, 芝田尚子, 松浦 駿, 森田 浩
傾向スコアマッチング法を用いたSGLT2阻害薬
(SGLT2i) 関連ケトーシスの発症リスク検討
第94回日本糖尿病学会中部地方会 2023.9, 名古屋市
- 柴崎晃司, 永田総一郎, 内田玲子, 今井ゆき子, 向山拓矢,
芝田尚子, 松浦 駿, 森田 浩, 佐々木茂和
当科糖尿病患者における唾液検査装置を用いた口腔内
環境に関する検討
第94回日本糖尿病学会中部地方会 2023.9, 名古屋市

今井ゆき子, 東 航平, 永田総一郎, 柴崎晃司, 内田玲子,
向山拓矢, 芝田尚子, 松浦 駿, 森田 浩, 佐々木茂和
SGLT2阻害薬の休薬後の尿糖排泄持続およびその期間に関する検討

第94回日本糖尿病学会中部地方会 2023.9, 名古屋市

永田総一郎, 柴崎晃司, 内田玲子, 今井ゆき子, 向山拓矢,
芝田尚子, 森田 浩, 佐々木茂和

甲状腺中毒症寛解後にTSBAbによる甲状腺機能低下症をきたした2例

第33回臨床内分泌代謝Update 2023.11, 横浜市

《 講演会発表 》

森田 浩

糖尿病支援において大切なこと

(～患者中心主義の実践のために～)

実地医家のための糖尿病WEB Seminar 2023.5, Web

森田 浩

志太地区の糖尿病診療の現状とアルゴリズムから見た薬剤選択

志太医師会学術講演会 SGLT2阻害薬の適正使用を考える
2023.7, 藤枝市

森田 浩

志太地区の2型糖尿病治療の現状と薬剤選択

(～SGLT2阻害薬の効果的な使い方と注意点～)

第11回志太・榛原循環器講演会 2023.7, 藤枝市

森田 浩

2型糖尿病治療の現状と薬剤選択

(～患者中心の医療を目指して～)

静岡県病院薬剤師会 西部支部例会 2023.8, 浜松市

森田 浩

糖尿病合併高血圧治療におけるARNIの位置付け

ARNI発売3周年記念講演会 ～糖尿病合併高血圧治療を再考する～
2023.8, 浜松市

森田 浩

糖尿病患者における歯周病の現状と医科歯科連携の必要性

～志太地区における糖尿病治療の現状と課題～

2023.9, 藤枝市

森田 浩

糖尿病合併高血圧治療におけるARNIの位置付け

糖尿病と腎臓から高血圧を考える 2023.9, 藤枝市

森田 浩

2型糖尿病治療の現状と薬剤選択

藤枝市薬剤師会学術講演会 2023.10, 藤枝市

森田 浩

糖尿病患者における歯周病の実態と早期治療の必要性

『いい歯の日』医科歯科連携で進める糖尿病早期治療

2023.11, 富士市

森田 浩

2型糖尿病患者における歯周病と腎症の現状と対策

志太・榛原・島田 糖尿病治療を考える会2023

2023.11, 藤枝市

森田 浩

2型糖尿病診療の現状と薬剤選択

(～SGLT2阻害薬の効果的な使い方と注意点～)

Kowa Web Conference 2023.12, Web

森田 浩

2型糖尿病診療の現状と薬剤選択

(～SGLT2阻害薬の効果的な使い方と注意点～)

生活習慣病医療連携の会 2023.12, 焼津市

呼吸器内科

Matsuura S, Serizawa S, Yamashita R, Morikawa K, Ito Y, Hiramatsu T, Mochizuki E, Tanaka K, Akiyama N, Tsukui M, Koshimizu N, Kosugi T

The Prognostic Nutritional Index before durvalumab after chemoradiation predicts the overall survival in patients with stage III non-small cell lung cancer

Ann Med 55(1) : 2196089, 2023 Dec

Fukada A, Fujisawa T, Hozumi H, Koda K, Akamatsu T, Oyama Y, Satake Y, Niwa M, Kaida Y, Matsuda H, Yokomura K, Koshimizu N, Toyoshima M, Imokawa S, Hashimoto D, Yoshida A, Gono T, Kuwana M,

Yamano Y, Kondoh Y, Yamashita K, Maekawa M, Mori K, Inoue Y, Yasui H, Suzuki Y, Karayama M, Furuhashi K, Enomoto N, Inui N, Suda T
Prognostic role of interferon-lambda 3 in anti-MDA 5-positive dermatomyositis-associated ILD
Arthritis Rheumatol 2023 Dec 25

Karayama M, Inui N, Inoue Y, Yasui H, Hozumi H, Suzuki Y, Furuhashi K, Fujisawa T, Enomoto N, Asada K, Uto T, Fujii M, Matsui T, Matsuura S, Hashimoto D, Toyoshima M, Ikeda M, Matsuda H, Inami N, Kaida Y, Funayama S, Ichikawa S, Goshima S, Suda T
Six-week oral prednisolone therapy for immune-related pneumonitis: a single-arm phase II study
J Immunother Cancer 11(7) : e007056, 2023 Jul

Inoue Y, Inui N, Karayama M, Asada K, Fujii M, Matsuura S, Uto T, Hashimoto D, Matsui T, Ikeda M, Yasui H, Hozumi H, Suzuki Y, Furuhashi K, Enomoto N, Fujisawa T, Suda T
Cytokine profiling identifies circulating IL-6 and IL-15 as prognostic stratifiers in patients with non-small cell lung cancer receiving anti-PD-1/PD-L1 blockade therapy
Cancer Immunol Immunother 72(8) : 2717-2728, 2023 Aug

Fujisawa T, Akiyama N, Morita T, Koyauchi T, Matsuda Y, Mori M, Miyashita M, Tachikawa R, Tomii K, Tomioka H, Hagimoto S, Kondoh Y, Inoue Y, Suda T
Palliative care for interstitial lung disease: A nationwide survey of pulmonary specialists
Respirology 28(7) : 659-668, 2023 Jul

《学会発表》

望月栄佑, 川村 彰, 増田貴文, 芹澤沙耶香, 山下遼真, 森川圭亮, 伊藤祐太郎, 平松俊哉, 秋山訓通, 田中和樹, 松浦 駿, 津久井賢, 小清水直樹
安静呼吸時の肺体積変化における4DCTとX線動態解析の相関
第63回日本呼吸器学会学術講演会
2023.4.28-30, 東京都

平松俊哉, 秋山訓通, 川村 彰, 増田貴文, 芹澤沙耶香, 山下遼真, 森川圭亮, 伊藤祐太郎, 望月栄佑, 田中和樹, 松浦 駿, 津久井賢, 小清水直樹
Interstitial lung abnormalities (ILA) の早期発見における肺エコーの有用性の検討
第63回日本呼吸器学会学術講演会
2023.04.28-30, 東京都

森川圭亮, 秋山訓通, 芹澤沙耶香, 山下遼真, 伊藤祐太郎, 平松俊哉, 望月栄佑, 田中和樹, 松浦 駿, 津久井賢, 小清水直樹
間質性肺炎患者におけるEpisodic Breathlessnessの頻度および特徴に関する観察研究
第63回日本呼吸器学会学術講演会
2023.04.28-30, 東京都

川村 彰, 松浦 駿, 増田貴文, 芹澤沙耶香, 山下遼真, 森川圭亮, 伊藤祐太郎, 平松俊哉, 望月栄佑, 秋山訓通, 田中和樹, 津久井賢, 小清水直樹
COPD増悪患者が再増悪する予測因子としてPrognostic Nutritional Indexを用いた検討
第63回日本呼吸器学会学術講演会
2023.04.28-30, 東京都

芹澤沙耶香, 松浦 駿, 川村 彰, 増田貴文, 山下遼真, 森川圭亮, 伊藤祐太郎, 平松俊哉, 望月栄佑, 秋山訓通, 田中和樹, 津久井賢, 小清水直樹
気管支動脈塞栓術後の再喀血におけるリスク因子の検討
第63回日本呼吸器学会学術講演会
2023.04.28-30, 東京都

増田貴文, 田中和樹, 川村 彰, 芹澤沙耶香, 山下遼真, 森川圭亮, 伊藤祐太郎, 平松俊哉, 望月栄佑, 秋山訓通, 松浦 駿, 津久井賢, 小清水直樹
特発性器質化肺炎(COP)と慢性好酸球性肺炎(CEP)の再発率、再々発率に関する検討
第63回日本呼吸器学会学術講演会
2023.04.28-30, (東京, ポスター)

松浦 駿, 川村 彰, 増田貴文, 芹澤沙耶香, 山下遼真, 森川圭亮, 伊藤祐太郎, 平松俊哉, 望月栄佑, 秋山訓通, 田中和樹, 津久井賢, 小清水直樹
Prognostic Nutritional IndexはIII期非小細胞癌におけるデュルバルマブの予後予測因子となるか?
第63回日本呼吸器学会学術講演会

2023.04.28-30, 東京都

田中和樹, 川村 彰, 増田貴文, 芹澤沙耶香, 山下遼真,
森川圭亮, 伊藤祐太郎, 平松俊哉, 望月栄佑, 秋山訓通,
松浦 駿, 津久井賢, 小清水直樹

**ペメトレキセド (PEM) が投与された進行期肺腺癌
症例のTTF-1 発現との関連を探索**

第63回日本呼吸器学会学術講演会

2023.04.28-30, 東京都

松浦 駿, 柴崎晃司, 今井ゆき子, 芝田尚子, 森田 浩
**肥満2型糖尿病における加療1年間での体組成変化量
とHbA1c変化・脂質比変化量の相関性について**

第66回日本糖尿病学会年次学術集会

2023.5.14-5.16, 鹿児島県

鈴木 僚, 森川圭亮, 平松俊哉, 伊藤祐太郎, 望月栄佑,
田中和樹, 秋山訓道, 松浦 駿, 津久井賢, 小清水直樹

**Osimertinib を含む複数の薬剤で薬剤性肺炎を発症
後、Afatinib を安全に投与でき奏功した肺腺癌の一例**

第123回日本呼吸器学会東海地方学会

2023.6.3-6.4, 名古屋市

山下遼真, 鈴木 僚, 芹澤沙耶香, 森川圭亮, 平松俊哉,
伊藤祐太郎, 望月栄佑, 田中和樹, 秋山訓道, 松浦 駿,
津久井賢, 小清水直樹

**2型炎症を伴っていたが抗真菌薬のみで軽快した慢性
肺 アスペルギルス症の一例**

第123回日本呼吸器学会東海地方学会

2023.6.3-6.4, 名古屋市

野村太一, 田中和樹, 鈴木 僚, 山下遼真, 平松俊哉,
望月栄佑, 秋山訓道, 松浦 駿, 津久井賢, 小清水直樹
**治療経過で原発巣を含む肺葉が変位した肺扁平上皮癌
の1例**

第250回日本内科学会東海地方会 2023.6.25, 三重県

増田貴文, 鈴木 僚, 川村 彰, 中村隆一, 山下遼真,
平松俊哉, 望月栄佑, 田中和樹, 秋山訓道, 松浦 駿,
津久井賢, 小清水直樹

**間質性肺疾患における過敏性肺炎問診票の有用性と
KL-6の変動について**

第43回日本サルコイドーシス学会総会

2023.10.6, 浜松市

鈴木 僚, 川村 彰, 増田貴文, 中村隆一, 山下遼真,
平松俊哉, 望月栄佑, 田中和樹, 秋山訓道, 松浦 駿,
津久井賢, 小清水直樹

胸水貯留をきっかけに増悪したサルコイドーシスの一例
第43回日本サルコイドーシス学会総会 2023.10.6, 浜松市

小清水直樹, 増田貴文, 川村 彰, 芹澤沙耶香, 山下遼真,
森川圭亮, 伊藤祐太郎, 平松俊哉, 一條甲子郎, 望月栄佑,
田中和樹, 秋山訓道, 津久井賢, 松浦 駿

サルコイドーシス患者の倦怠感について

第43回日本サルコイドーシス学会総会 2023.10.6, 浜松市

中原 凜, 松浦 駿, 鈴木 僚, 川村 彰, 増田貴文,
中村隆一, 山下遼真, 平松俊哉, 望月栄佑, 田中和樹,
秋山訓道, 津久井賢, 小清水直樹

**免疫チェックポイント阻害薬による辺縁系脳炎で記名
力低下と自律神経障害を合併した小細胞癌の1例**

第124回日本呼吸器学会東海地方学会

2023.11.11, 浜松市

佐藤 秀, 松浦 駿, 鈴木 僚, 川村 彰, 増田貴文,
中村隆一, 山下遼真, 平松俊哉, 望月栄佑, 田中和樹,
秋山訓道, 津久井賢, 小清水直樹

**生物学的製剤の変更に判明した好酸球性多発血管炎
性肉芽腫症の一例**

第124回日本呼吸器学会東海地方学会

2023.11.11, 浜松市

川村 彰, 鈴木 僚, 増田貴文, 中村隆一, 山下遼真,
平松俊哉, 望月栄佑, 田中和樹, 秋山訓道, 松浦 駿,
津久井賢, 小清水直樹

**血性胸水を契機に肺血栓栓症の診断に至った若年男
性の一例**

第124回日本呼吸器学会東海地方学会

2023.11.12, 浜松市

消化器内科

《 著 書 ・ 論 文 》

丸山保彦

胃炎の京都分類 (春間 賢編) 第3版

91~94, 110~112, 2023

丸山保彦, 寺井智宏
特発性胃潰瘍.
医学と薬学 80 : 887~891, 2023

丸山保彦, 寺井智宏, 吉井重人, 景岡正信, 大島昭彦,
星野弘典, 稲垣圭祐, 乾航, 馬場皓大, 丸山巧
特発性胃前庭部難治性潰瘍
消化器内視鏡 35 : 1010~1014, 2023

丸山保彦, 星野弘典
自己免疫性胃炎に合併した胃癌.
消化器内科 35 : 37~43, 2023

丸山保彦, 神谷欣志, 安田和世
Myxoid Epithelioid GIST
胃と腸 58 : 1280~1283, 2023

丸山保彦, 寺井智宏, 安田和世
好酸球性食道炎
胃と腸 58 : 404~407, 2023

丸山保彦, 吉井重人, 景岡正信, 大島昭彦, 寺井智宏,
星野弘典, 稲垣圭祐, 佐藤大輝, 馬場皓大, 安田和世,
馬場聡
生検により変性した粘液が“naked fat sign”様に流出
した粘膜下異所性胃腺の一例
胃と腸 58 : 688~692, 2023

鎌田智有, 渡辺英伸, 古田隆久, 寺尾秀一, 丸山保彦,
河内洋, 九嶋亮治, 千葉勉, 春間賢
自己免疫性胃炎の診断基準に関する附置研究会からの
新提案
Gastroenterological Endoscopy 65 : 173~82, 2023

Tomoari Kamada, Hidenobu Watanabe, Takahisa
Furuta, Shuichi Terao, Yasuhiko Maruyama,
Hiroshi Kawachi, Ryoji Kushima, Tsutomu Chiba,
Ken Haruma
Diagnostic criteria and endoscopic and
histological findings of autoimmune gastritis in
Japan
J Gastroenterol 58 : 185~195, 2023

Ken Namikawa, Tomoari Kamada, Junko Fujisaki,
Yuichi Sato, Takahisa Murao, Tsutomu Chiba,

Yasuharu Kaizaki, Kenji Ishido, Yutaro Ihara, Koichi
Kurahara, Tomoaki Suga, Haruhisa Suzuki, Masanori
Ito, Katsuya Hirakawa, Yasuhiko Maruyama, Takuji
Gotoda, Osamu Hosokawa, Tomohiro Koike,
Katsuhiko Mabe, Takashi Yao, Kazuo Inui, Hiroyasu
Iishi, Haruhiko Ogata, Takahisa Furuta, Ken Haruma
Clinical characteristics and long-term prognosis
of type 1 gastric neuroendocrine tumors in a
large Japanese national cohort
Digestive Endoscopy 35 : 757~766, 2023

寺井智宏, 丸山保彦
非ピロリ菌・非薬剤性胃潰瘍（特発性胃潰瘍）の要因
と内視鏡像
消化器内科 35 : 5巻 (1号), 2023.6

《 発表 》

寺井智宏, 丸山保彦, 吉井重人
非Helicobacter pylori・非薬剤性胃潰瘍（特発性胃
潰瘍）の前庭部難治例と非難治例での患者背景の比較
検討について
第19回 日本消化管学会総会 2023.2.3, 東京都

寺井智宏
『“潰瘍性大腸炎紹介のタイミング”について』
- 5-ASA不耐と5-ASA高用量の視点から -
大腸疾患地域連携講演会 2023.3.2, 藤枝市

丸山保彦, 星野弘典, 安田和世
自己免疫性胃炎（AIG）に合併する胃癌～H.pylori
（HP）との関係に注目して
第109回日本消化器病学会総会 2023.4.6, 長崎県

大島昭彦, 吉井重人, 景岡正信, 寺井智宏, 星野弘典,
稲垣圭祐, 佐藤大輝, 馬場皓大, 丸山保彦
「当院におけるgroove腺癌、groove腺炎の検討」
第109回日本消化器病学会総会 2023.4.6-8, 長崎県

丸山保彦
PPI長期投与により発生し中止により縮小したラズベ
リー様Foveolar type adenomaの一例
新たな（に）胃病変を考える会 2023.5.24, Web

丸山保彦, 安田和世, 吉井重人
自己免疫性胃炎の発癌リスクの検討 - 萎縮度の点か

らも含めて～

第105回日本消化器内視鏡学会総会 2023.5.25, 東京都

丸山保彦

Cameron潰瘍の一例

第7回静岡消化管疾患研究会 2023.6.2, 静岡県

馬場皓大, 佐藤大輝, 稲垣圭祐, 星野弘典, 寺井智宏,
大島昭彦, 景岡正信, 吉井重人, 丸山保彦

脾腫瘍を契機に診断に至った悪性リンパ腫の一例

第138回日本消化器病学会東海支部例会

2023.6.17, 名古屋市

寺井智宏, 馬場皓大, 稲垣圭祐, 星野弘典, 大島昭彦,
景岡正信, 吉井重人, 丸山保彦

**MTX+ 5-FU交代療法が奏効してDICを離脱した胃癌
播種性骨髄癌腫症の1例**

第138回日本消化器病学会東海支部例会

2023.6.17, 名古屋市

寺井智宏, 丸山 巧, 馬場皓大, 稲垣圭祐, 乾 航,
星野弘典, 大島昭彦, 景岡正信, 吉井重人, 丸山保彦

**潰瘍性大腸炎の診断で5-ASA不耐を合併した好酸球
性大腸炎の症例**

第135回 静岡県大腸疾患研究会

2023.6.21, 静岡県

大島昭彦, 景岡正信

当院における膵管ステント迷入症例の検討

第54回日本膵臓学会大会

2023.7.21-22, 福岡県

稲垣圭祐, 大島昭彦, 景岡正信

**下部胆管が屈曲し総胆管結石除去に難渋したBillroth
I法再建の1例**

第54回日本胆道学会学術集会

2023.9.14-15, 札幌市

寺井智宏

症例提示1 区域大腸炎型UC + 5-ASA不耐 + α 症例

静岡県中部UC治療を考える会

2023.9.27, 静岡県

寺井智宏, 丸山 巧, 馬場皓大, 稲垣圭祐, 乾 航,
星野弘典, 大島昭彦, 景岡正信, 吉井重人, 丸山保彦

**潰瘍性大腸炎における5-ASA高用量不耐例の5-ASA
継続使用率と臨床経過について**

JDDW 2023

2023.11.3, 神戸市

寺井智宏

**少し稀な消化性潰瘍の話 ～震災関連のストレス因子
も含めて～**

院内症例発表会

2023.11.6, 藤枝市

高橋嘉那太, 寺井智宏, 丸山保彦, 吉井重人, 景岡正信,
大島昭彦, 星野弘典, 乾 航, 稲垣圭祐, 馬場皓大, 丸山 巧

**免疫調節剤使用を背景に発症した高齢発症直腸EBV
陽性皮膚粘膜潰瘍 (EBVMCU) の1例**

第139回日本消化器病学会東海支部例会

2023.11.18, 岐阜県

星野弘典, 吉井重人, 丸山保彦

**『消化器疾患診療における医療安全 - 各施設での取り
組み - 』消化器疾患診療における医療安全を内視鏡シ
ステムの機器ログ情報分析より考える**

第139回日本消化器病学会東海支部例会

2023.11.18, 岐阜県

寺井智宏, 高橋嘉那太, 丸山 巧, 馬場皓大, 稲垣圭祐,
乾 航, 星野弘典, 大島昭彦, 景岡正信, 吉井重人,
丸山保彦

**免疫調節剤使用を背景に発症した高齢発症直腸EBV
陽性皮膚粘膜潰瘍 (EBVMCU) の症例**

第136回 静岡県大腸疾患研究会

2023.11.29, 静岡県

乾 航, 景岡正信, 大島昭彦, 吉井重人, 寺井智宏,
星野弘典, 稲垣圭祐, 馬場皓大, 丸山巧, 丸山保彦

**IgG4 関連硬化性胆管炎で加療中に原発性硬化性胆管
炎に移行した一例**

第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会

2023.12.2, 名古屋市

馬場皓大, 寺井智宏, 丸山保彦, 吉井重人, 景岡正信,
大島昭彦, 星野弘典, 乾 航, 稲垣圭祐, 丸山 巧

非薬剤起因性collagenous colitisの一例

第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会

2023.12.2, 名古屋市

丸山 巧, 丸山保彦, 吉井重人, 景岡正信, 大島昭彦,
寺井智宏, 星野弘典, 稲垣圭祐, 乾 航, 馬場皓大

**PPI長期投与により発生し中止により縮小した「ラス
ベリー型腺窩上皮型腫瘍」と鑑別を要したpolypoid
foveolar hyperplasiaの一例**

第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会

2023.12.2, 名古屋市

内山咲良, 寺井智宏, 丸山 巧, 馬場皓大, 稲垣圭佑,
乾 航, 星野弘典, 大島昭彦, 景岡正信, 吉井重人,
丸山保彦

PTTMを合併した胃癌症例
院内症例発表会 2023.12.4, 藤枝市

丸山保彦
食道SMT 硝子化結節の一例
第8回静岡消化管疾患研究会 2023.10.27, 静岡県

丸山保彦
自己免疫性胃炎の内視鏡病期分類の策定を目指して—
事前登録症例の集計・分析結果発表
第3回自己免疫性胃炎の診断基準確立とその臨床病理
学的意義に関する研究会 2023.11.4, 神戸市

《 講演 》

丸山保彦
自己免疫性胃炎の内視鏡病期とPGなどの臨床的マーカーの相関について
第2回AIGの診断基準確立とその臨床病理学的意義に関する研究会特別講演 2023.5.27, 東京都

丸山保彦
内視鏡所見から考える病期・病態を意識したAIGの診断
第40回 EGMR研究会 特別講演 2023.7.7, 東京都

丸山保彦
下部消化管疾患あれこれ～IBDを含めて
リアル内視鏡研究会 2023.7.28, 静岡県

丸山保彦
自己免疫性胃炎の病期を意識した内視鏡診断
AI Medical全国ウェビナー 2023.8.24, Web

丸山保彦
胃がん内視鏡検診 ～基礎と応用（トピックス）～
志太医師会 2023.9.26, 藤枝市

吉井重人
患者満足度を高めるワンランク上の便秘治療
ヴィアトリスランチオンセミナー ～腸と便秘を考える～
2023.7.31, Web

吉井重人
患者満足度を高めるワンランク上の便秘治療
腸と便秘を考える会in静岡 2023.4.14, 静岡県

吉井重人
当院における胃癌化学療法「一次治療の検討」
第3回志太榛原エリア胃がんWebセミナー
2023.11.30, 藤枝市

吉井重人
病診連携、病病連携の地域診療ネットワークを基盤としたIBD診療
IBD Small Meeting in 中遠・志太榛原
2023.9.6, 藤枝市

循環器内科

《 学会・研究会発表 》

南條宏太
感染に対するリード抜去術後のリードレスペース
メーカー植込み時期の検討
第15回植込デバイス関連冬季大会 2023.2.25, 仙台市

安藤涼太
Lower Skeletal Muscle Volume Measured by
Computed Tomography is Associated with
Adverse Clinical Events in Elderly Patients with
Aortic Stenosis
第87回日本循環器学会学術集会 2023.3.10-12, 福岡県

安藤涼太
Preservation in Renal Tubulointerstitial Function
Reduces Cardiovascular Risk in Patients with
Myocardial Infarction
第87回日本循環器学会学術集会 2023.3.10-12, 福岡県

阿部萌子
Six Cases of Pregnancy-related Venous
Thromboembolism.
第87回日本循環器学会学術集会 2023.3.10-12, 福岡県

安藤涼太
当科における心アミロイドーシス診察と地域医療連携

第9回日本心筋症研究会 2023.5.13, 大阪府

南條宏太

慢性血栓性肺高血圧症に対し準緊急で肺動脈形成術を
施行した一例

第8回日本肺高血圧・肺循環学会 2023.6.4, 神戸市

南條宏太

右心房内に発生した腫瘍と考えられた腫瘍が血栓と判
明した一例

第71回日本心臓病学会総会 2023.9.7, 東京都

川口直紀

当院での特発性冠動脈解離（SCAD）による急性心筋
梗塞14例の検討

日本内科学会東海地方会 2023.10.15, 名古屋市

阿部萌子

低左心機能による心内血栓が原因と考えられた冠動脈
閉塞の1例

PCI症例検討会 2023.11.21, 静岡県

南條宏太

診断に難渋した心原性ショックの症例

第1回静岡心エコー図セミナー 2023.12.2, Web

《 論 文 》

Takeo Horikoshi, Takamitsu Nakamura, Toru Yoshizaki, Jun Nakamura, Yosuke Watanabe, Manabu Uematsu, Aritaka Makino, Tsuyoshi Kobayashi, Yukio Saito, Jun-Ei Obata, Takao Sawanobori, Hajime Takano, Ken Umetani, Akinori Watanabe, Tetsuya Asakawa, Akira Sato

A Stratified Analysis of the Risk Associated With Low Body Mass Index for Patients After Percutaneous Coronary Intervention

Journal of Atherosclerosis and Thrombosis

1 : 30(5) : 502-514, 2023 May

Takeo Horikoshi, Takamitsu Nakamura, Toru Yoshizaki, Jun Nakamura, Manabu Uematsu, Tsuyoshi Kobayashi, Yukio Saito, Jun-Ei Obata, Takao Sawanobori, Hajime Takano, Ken Umetani, Tetsuya Asakawa, Akira Sato

Predictive Value of CHADS2, CHA2DS2-VASc

and R2-CHADS2 Scores for Short- and Long-Term Major Adverse Cardiac Events in Non-ST-Segment Elevation Myocardial Infarction

Circulation Journal

2023 Dec 15

Kazuyuki Yamaguchi, Takamitsu Nakamura, Tsuyoshi Kobayashi, Toru Yoshizaki, Kazuto Nakamura, Takeo Horikoshi, Manabu Uematsu, Ryota Yamada, Ryota Ando, Yosuke Watanabe, Kenji Kuroki, Akira Sato

Computed Tomography-Based Novel Aortic Tortuosity Assessment for Aortic Valve Stenosis Undergoing Transcatheter Aortic Valve Replacement

JACC Cardiovascular interventions

25 : 16(24) : 3052-3054, 2023 Dec

《 講 演 活 動 》

中村 淳

当院における心不全教育入院の取り組み

藤枝循環器連携講演会

2023.3.2.2, 藤枝市

尾畑純栄

循環器内科におけるカテーテルインターベンション

持田製薬社内勉強会

2023.2.9, 藤枝市

尾畑純栄

虚血性心疾患の治療 - 鉄欠乏症と貧血 -

志太榛原心腎連関webセミナー

2023.5.23, Web

尾畑純栄

心不全パンデミック時代における心臓弁膜症

サンデークリニック

2023.6.4

中村 淳

藤枝心不全地域連携の歩みと今後の課題

志田医師会 高尿酸血症治療講演会

2023.6.7, 藤枝市

尾畑純栄

心不全とSGLT2阻害剤

アストラゼネカ社内勉強会

2023.6.21, 藤枝市

尾畑純栄

心臓病のおはなし - 息切れは年齢のせい? -

藤枝市立総合病院市民公開講座

2023.7.15, 藤枝市

渡邊和徳

当院における心不全マネジメント

高齢社会の慢性疾患を考える会in藤枝

2023.11.15, 藤枝市

尾畑純栄

リスクマネジメントにおける脂質低下療法の重要性

志太榛原Heart Disease Forum

2023.12.14, 島田市

腎臓内科

《 原 著 論 文 》

小田巻真理, 佐々木貴充, 山本龍夫, 池谷直樹, 永田総一郎, 大橋 温, 安田日出夫, 加藤明彦, 篠原由美子, 菱田 明
自己記入式調査票によるカリウム摂取量推定法の精度の検討

日本病態栄養学会誌

26(4) : 293-304, 2023

Huang YJ, Zhao X, Zhang Q, Yang X, Hou G, Peng C, Jia M, Zhou L, Yamamoto T, Zheng J

Novel therapeutic perspectives for crescentic glomerulonephritis through targeting parietal epithelial cell activation and proliferation

Expert Opin Ther Targets

27(1) : 55-69, 2023

《 総 説 》

1. 山本龍夫

CKDネットマニュアル配布とCKDシールを用いた薬剤師参加CKD病診連携“ふじえだCKDネット”

Medical View Point

44(8) : 6, 2023

《 学 会 発 表 》

山本龍夫, 中本明日香, 高橋孝江, 片山 純, 山田智紀, 小林純子, 田中 幸, 佐々木貴充, 木部万愛, 佐藤太一
CKD（慢性腎臓病）指導がCKD患者の維持透析導入に至る期間、腎生存率に及ぼす影響

第73回日本病院学会

2023.9.21-22, 仙台市

中本明日香, 山本龍夫, 高橋孝江, 増田ゆり, 山田智紀, 佐藤太一, 佐々木貴充, 木部万愛

慢性腎臓病指導が疾患の進行や透析導入に及ぼす影響の検討 —当院の慢性腎臓病指導の現状把握と今後の課題—

第73回日本病院学会

2023.9.21-22, 仙台市

山本龍夫, 中本明日香, 高橋孝江, 山田智紀, 永井陽子, 増田ゆり, 佐々木貴充, 木部万愛, 後藤優也, 佐藤太一
CKD指導がCKD患者の腎生存率、腎心血管病の入院期間に及ぼす影響

第16回日本CKDチーム医療研究会

2023.10.14-15, 東京都

中本明日香, 高橋孝江, 山田智紀, 永井陽子, 増田ゆり, 佐々木貴充, 木部万愛, 後藤優也, 佐藤太一, 山本龍夫
慢性腎臓病（CKD）指導が保存期 CKD 患者の心理的变化に及ぼす影響 —当院の現状把握と今後の課題—

第16回日本CKDチーム医療研究会

2023.10.14-15, 東京都

《 講 演 》

山本龍夫

多職種連携で取り組むCKD・DKD対策 薬剤師参加CKD病診連携“ふじえだCKDネット”

2023.5.24, 藤枝市

山本龍夫

藤枝市の多職種連携で取り組む薬剤師参加病診連携ネットワーク

東三河糖尿病・透析予防協議会

2023.7.20, 豊橋市

山本龍夫

行政、医療機関、専門団体と連携したCKD対策“ふじえだCKDネット”の取組みと成果

令和5年度 鹿児島県慢性腎臓病（CKD）に関する研修会

2023.8.18, 鹿児島県

山本龍夫

ふじえだCKDネット開始7年の効果とCKD診療ガイドライン2023の改訂ポイント

第9回ふじえだCKDネット講演会

2023.11.28, 藤枝市

《 賞 》

山本龍夫

第16回日本CKDチーム医療研究会 優秀演題賞

2023.10.15

外科

《 論文 》

丸山保彦, 神谷欣志, 安田和世

【「胃と腸」式 読影問題集2023 応用と発展-考える画像診断が身につく】胃 (Case 9)

胃と腸 58(10) : 1280-1283, 2023

《 学会発表 》

立田協太, 美甘麻裕, 岡本和哉, 浅羽雄太郎, 原田 岳, 鈴木 潔, 森田剛文, 菊池寛利, 平松良浩, 倉地清隆, 竹内裕也

静岡県における家族性大腸腺腫症サーベイランスの現況と課題 S-FAP registry解析

第85回日本臨床外科学会総会 2023.11.16-18, 岡山県

黒田昂宏, 姜 建宇, 岡本和哉, 白木 巧, 近藤里江, 矢田達朗, 西山元啓, 東 正樹, 島村隆浩, 前間 篤, 神谷欣志, 中村利夫

上行結腸癌術後CapeOX+bevacizumab投与中に生じた十二指腸穿孔の1例

第78回日本大腸肛門病学会学術集会 2023.11.10-11, 熊本県

姜 建宇, 岡本和哉, 白木 巧, 黒田昂宏, 近藤里江, 矢田達朗, 西山元啓, 東 正樹, 島村隆浩, 前間 篤, 神谷欣志, 中村利夫

側方リンパ節転移個数別に見た下部直腸癌に対する側方郭清の治療効果

第78回日本大腸肛門病学会学術集会 2023.11.10-11, 熊本県

立田協太, 阪田麻裕, 岩泉守哉, 岡本和哉, 杉山洸裕, 小嶋忠浩, 赤井俊也, 鈴木克徳, 鳥居 翔, 倉地清隆, 竹内裕也

吻合方法別でみる家族性大腸腺腫症に対する大腸全摘術の長期成績 多施設共同後ろ向き観察研究

第78回日本大腸肛門病学会学術集会 2023.11.10-11, 熊本県

立田協太, 阪田麻裕, 岡本和哉, 浅羽雄太郎, 林 忠毅, 森田剛文, 菊池寛利, 平松良浩, 倉地清隆, 竹内裕也

地方都市における家族性大腸腺腫症サーベイランスの現況と課題 多施設共同観察研究

第21回日本消化器外科学会大会

2023.11.2-4, 神戸市

立田協太 (浜松医科大学外科学第二講座), 美甘麻裕, 岡本和哉, 浅羽雄太郎, 原田 岳, 鈴木 潔, 森田剛文, 菊池寛利, 平松良浩, 倉地清隆, 竹内裕也

静岡県内家族性大腸腺腫症サーベイランスの現況と課題 多施設共同観察研究 (会議録)

静岡県外科医会第248回集談会 2023.9.2, 浜松市

緑川裕紀, 島村隆浩, 神谷欣志, 白木 巧, 東 正樹, 岡本和哉, 姜 建宇, 前間 篤, 白川元昭, 中村利夫
高度狭窄および広範な体部浸潤を伴う切除不能4型進行胃癌に対する高位胃空腸吻合術の有用性

第78回日本消化器外科学会総会 2023.7.12-14, 函館市

立田協太, 阪田麻裕, 岡本和哉, 森 雅史, 林 忠毅, 小泉貴弘, 岩泉守哉, 菊池寛利, 倉地清隆, 竹内裕也
大腸全摘術に対する吻合方法別で比較した家族性大腸腺腫症の長期予後 多施設共同後ろ向き観察研究

第78回日本消化器外科学会総会 2023.7.12-14, 函館市

西山元啓, 白川元昭

右心房へ進展した静脈内平滑筋腫症に対する二次的手術の1例

第51回日本血管外科学会学術総会 2023.5.31-6.2, 東京都

角山泰一朗, 北村真樹, 増田嵩高, 東 正樹, 神谷欣志
Acute care surgeryの役割と地域における包括的外傷診療体制の構築

第123回日本外科学会定期学術集会 2023.4.27-29, 東京都

白木 巧, 東 正樹, 岡本和哉

傍ストーマヘルニア内で人工肛門穿孔を来した1例

第59回日本腹部救急医学会総会 2023.3.9-10, 沖縄県

黒田昂宏, 島村隆浩, 神谷欣志, 福井脩介, 白木 巧, 緑川裕紀, 西山元啓, 東 正樹, 岡本和哉, 前間 篤, 姜 建宇, 白川元昭, 中村利夫, 安田和世

胃癌術後異時性卵巣転移切除の1例

静岡県外科医会第247回集談会 2023.3.4, 静岡県

水島史乃, 森永美乃, 岡本和哉, 中村利夫, 大村裕子
緩和ストーマ造設術後早期における緩和ケアチームの
かかわりの現状

第40回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会
2023.2.24-25, 東京都

乳腺外科

《論文》

藤澤翔太, 瀧由美子, 甲斐三紀子, 池田暁子, 五十嵐達也,
安田和世, 長谷川聡

広範な梗塞壊死を伴った浸潤性乳管癌（充実型）の1例
乳癌の臨床 38 : 427-435, 2023

竹原さゆり, 瀧由美子, 池田暁子, 五十嵐達也, 安田和世,
甲田賢治, 長谷川聡

男性乳腺線維腫症の1例
乳癌の臨床 38 : 35-41, 2023

《学会発表》

甲斐三紀子, 瀧由美子, 池田暁子, 五十嵐達也, 安田和世,
甲田賢治, 長谷川聡

アバマシクリブとレトロゾール投与開始後超早期に間
質性肺炎を発症した進行性乳癌の一例
第30回日本乳癌学会学術総会 2023.6.30, 横浜市

小林萌々子, 甲斐三紀子, 瀧由美子, 長谷川聡

Paclitaxel投与中に黄斑浮腫を発症した2例
第30回日本乳癌学会学術総会 2023.7.1, 横浜市

長谷川聡, 甲斐三紀子, 瀧由美子, 池田暁子, 五十嵐達也
当院でのHER2陽性進行再発乳癌に対する
Trastuzumab Deruxtecanの治療経験
第30回日本乳癌学会学術総会 2023.7.1, 横浜市

小林萌々子, 瀧由美子, 甲斐三紀子, 池田暁子, 五十嵐達也,
甲田賢治, 長谷川聡

眼窩転移を機に診断された同時性両側乳癌の1例
第20回日本乳癌学会中部地方会 2023.9.2, 甲府市

甲斐三紀子, 瀧由美子, 池田暁子, 五十嵐達也, 長谷川聡
dose-dense AC 施行中に *Pneumocystis jirovecii*
pneumonia を発症した1例

第20回日本乳癌学会中部地方会 2023.9.2, 甲府市

《講演》

長谷川聡

当院におけるエンハーツ治療の実際

乳癌治療 Web Seminar エンハーツのリスク・ベネ
フィットを考える 2023.1.20, 静岡市

長谷川聡

ジーラスタの使い方 ガイドライン+α

志太榛原 がん支持療法Webセミナー
2023.10.19, 藤枝市

呼吸器外科

《業績》

大岩宏聡, 上林明日翔, 江間俊哉

ロボット支援下肺葉切除の導入と初期成績の検討
第40回日本呼吸器外科学会学術集会

2023.7.13-14, 新潟市

上林明日翔, 大岩宏聡, 江間俊哉

当院における若年性気胸の術後再発因子の検討
第40回日本呼吸器外科学会学術集会

2023.7.13-14, 新潟市

江間俊哉, 大岩宏聡, 上林明日翔

胸部デジタルX線動態撮影を用いた胸腔内癒着の予測
に関する検討

第76回日本胸部外科学会定期学術集会

2023.10.19-21, 千葉市

大岩宏聡, 上林明日翔, 江間俊哉

ダブルルーメンチューブを使用したロボット支援手術
後に声門下狭窄を来した1例

第64回日本肺癌学会学術集会 2023.11.2-4, 千葉市

上林明日翔, 大岩宏聡, 江間俊哉

気道熱傷による機関狭窄既往のある膿胸患者に対して
気管切開後に膿胸搔爬術を施行し治癒した1例

第64回日本肺癌学会学術集会 2023.11.2-4, 千葉市

江間俊哉, 大岩宏聡, 上林明日翔

デジタル胸部X線動により発生部位を予測し得た臓側

胸膜発生solitary fibrous tumorの1例
第64回日本肺癌学会学術集会 2023.11.2-4, 千葉市

《 論文 》

Uebayashi A, Ema T, Oiwa H, Yasuda K, Matsubara O, Funai K
Rupture of thymoma due to recurrent tumor hemorrhage: a case report
AME Case Rep P18:7:23, 2023Jul

Oiwa H, Sugawara K, Morita S, Uebayashi A, Sakai H, Funai K, Ema T
Severe subglottic stenosis after resection of anterior mediastinal tumor using a double-lumen tube: a case report
AME Case REP 13:8:14, 2023 Dec

整形外科

《 著書・論文 》

田口裕香
大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭挿入術における仰臥位前外側アプローチと後方アプローチの比較
中部整災 66 : 627-628, 2023

Hironobu Hoshino
Hip injuries in young athletes : intra-articular hip pathologies and treatments
J Joint Surg Res 1(1) : 41-45, 2023

星野裕信
境界型寛骨臼形成不全に対する股関節鏡視下手術
臨床整形外科 58(7) : 869-873, 2023

星野裕信
非専門医による関節症例外来フォローのポイント
臨床整形外科 58(5) : 662-666, 2023

《 学会発表 》

一般口演
村松慎也, 鈴木希央, 鈴木重哉, 青木健太郎, 南波光洋, 猿渡 幹, 植松駿一, 野田健人, 星野裕信
上咽頭癌治療後の咽頭後壁潰瘍から頸椎骨髄炎および

環軸椎亜脱臼を生じた一例
第201回静岡県整形外科医会集談会 2023.7.8, 浜松市

田口裕香
大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭挿入術における仰臥位前外側アプローチと後方アプローチの比較
第140回中部日本整形外科災害外科学会 2023.4.7, 奈良市

星野裕信, 古橋弘基, 清水雄太, 松竹由晃, 松山幸弘
軽度寛骨臼形成不全における円靭帯の股関節static instabilityへの関与
日本整形外科学会 2023.5.11, 横浜市

星野裕信, 古橋弘基, 清水雄太, 松竹由晃, 松山幸弘
脊椎疾患治療歴の有無がCentral Sensitization Inventoryと人工股関節置換術後の評価に及ぼす影響
日本整形外科学会 2023.5.14, 横浜市 ポスター発表

田口裕香
股関節疾患における大腿骨骨長左右差の検討
第50回日本股関節学会 2023.10.27, 福岡市中央区

田口裕香
複数回手術を行った外傷後大腿骨早期骨端線閉鎖による脚長不等の一例
第34回日本小児整形外科学会 2023.11.23, 神戸市中央区

星野裕信, 古橋弘基, 堀田健介, 清水裕太, 松竹由晃, 松山幸広
発育期におけるスポーツ関連の股関節唇損傷と大腿骨頸部のCam形態の関連
日本整形外科学会 2023.5.13, 横浜市

《 講演 》

鈴木希央
本当にあった怖いDISH椎体骨折のはなし
藤枝学術カンファレンス 2023.11.6, 藤枝市

鈴木重哉
藤枝市における地域連携パス
旭化成ファーマ社内教育研修講演 2023.5.31, 静岡市 (現地, Web)

- 鈴木重哉
藤枝市における大腿骨地域連携パスの現状と「二次性骨折予防に対する診療報酬改定」への期待
骨と痛みのWEBセミナー
2023.12.21, 藤枝市 (現地, Web)
- 星野裕信
超高齢社会における骨粗鬆症治療薬の使い分けとピットフォール
第179回浜松整形外科セミナー 2023.1.12, 浜松市
- 星野裕信
非専門医による骨粗鬆症診療のコツとピットフォール
医療連携WEB Seminar 2023.2.24, 浜松市
- 星野裕信
股関節痛の病態と疼痛機序を考慮した治療戦略
第20回北勢整形外科懇話会 2023.3.11, 四日市市
- 星野裕信
超高齢社会における骨粗鬆症治療薬の使い分けとピットフォール
静岡県病院薬剤師会西部支部学術講演会
2023.3.15, 浜松市
- 星野裕信
骨粗鬆症の治療介入とGoal-directed treatmentによる薬物治療の考え方
Osteoporosis Web Seminar 2023.5.19, Web
- 星野裕信
非専門医による骨粗鬆症診療のコツとピットフォール
藤枝市立総合病院学術カンファレンス
2023.6.5, 藤枝市
- 星野裕信
超高齢社会における骨粗鬆症治療薬の使い分けとピットフォール
第2回Suruga Bone Seminar 2023.6.8, 藤枝市
- 星野裕信
乳がん専門医による骨粗鬆症マネジメント
第27回静岡県東部乳がん勉強会 2023.7.10
- 星野裕信
健康寿命を延ばすための運動器の自己点検とメンテナンス術
藤枝市市民公開講座 2023.7.15, 藤枝市
- 星野裕信
日常診療に役立つ骨粗鬆症の基礎と臨床
骨と痛みのセミナー 2023.8.3, 藤枝市
- 星野裕信
股関節痛の病態と疼痛機序を考慮した治療戦略
第186回浜松整形外科セミナー 2023.8.5, Web
- 星野裕信
股関節疾患の治療体型におけるゾレドロン酸の有用性
青森リクエスト オンライン講演会 2023.8.31, 弘前市
- 星野裕信
股関節鏡手術の今までとこれからー股関節外科医にとつての股関節鏡の意義ー
第18回日本股関節鏡研究会 基調講演
2023.9.2, 広島市
- 星野裕信
超高齢社会における骨粗鬆症治療薬の使い分けとピットフォール
焼津市薬剤師会生涯学習研修会 2023.9.27, 焼津市
- 星野裕信
Goal-directed treatmentからみた骨粗鬆症薬物治療の考え方
第188回浜松整形外科セミナー 2023.10.12, 浜松市
- 星野裕信
Legend Cupの使用経験
THAユーザーズミーティング 2023.10.14, 東京都
- 星野裕信
股関節鏡視下手術の適応と基本手技
第50回日本股関節学会教育研修講演
2023.10.27, 福岡市
- 星野裕信
医療人として知っておきたい骨粗鬆症の話
FLS講演会 2023.10.31, 藤枝市

星野裕信
股関節の健康が人生を豊かにする
SBS放送 サンデークリニック 2023.12.24, 静岡市

《 寄稿・新聞広告 》

星野裕信
股関節の痛みー専門医や医療機関の受診をー
静岡新聞 2023.7.13

脳神経外科

《 国内学会発表 》

小笠原一源, 田中悠二郎, 横山智哉
経過観察中に破裂したTwig-like network内微小脳動脈瘤の一例と予防的治療の是非
第47回日本脳卒中学会学術集会
2023.3.18, 神奈川県横浜市

小笠原一源, 田中悠二郎, 横山智哉
症状進行性のisolated internal carotid occlusionに対してflow reversal 法を用いて血栓回収するも広範梗塞に至った一例
第57回日本脳神経血管内治療学会中部地方会学術集会
2023.3.25, 愛知県名古屋市

小笠原一源, 田中悠二郎, 伊賀崎翔太, 菊田 朗
Twig-like MCAに関連した脳動脈瘤に対する治療戦略
日本脳神経外科学会 第82回学術総会
2023.10.25~27, 神奈川県横浜市

菊田 朗, 田中悠二郎, 伊賀崎翔太, 小笠原一源
海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻に対する経静脈的コイル塞栓術に伴う脳神経障害
静岡血管内治療研究会 2023.10.5, 静岡市

菊田 朗, 小笠原一源, 伊賀崎翔太, 田中悠二郎
破裂椎骨-後下小脳動脈分岐部瘤を合併した遺残原始舌下神経動脈の1例
日本脳神経外科学会第82回学術総会 2023.10.27, 横浜市

菊田 朗, 一柟倫生, 松永恭輔, 河野道宏, 中島伸幸
小児脳室内出血に対する内視鏡下頭蓋内血腫除去の経験-3例報告

第30回日本神経内視鏡学会 2023.11.16, 名古屋市

菊田 朗, 田中悠二郎, 伊賀崎翔太, 小笠原一源
APAL・CPALを用いた抗血小板薬の周術期マネジメント - 当院における連続89症例の後方視的検討 -
JSNET 2023.11.23, 京都市

伊賀崎翔太
両側小脳広範梗塞の脳幹虚血症例に対する血行再建術
第4回日本脳神経内科血管治療研究会
2023.8.19-20, 盛岡市

伊賀崎翔太, 小笠原一源, 菊田 朗, 田中悠二郎
当院における悪性腫瘍合併患者に対する脳血栓回収術
第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会
2023.11.23.-25, 京都市

田中悠二郎, 渡辺大介, 井上 文, 鹿子裕介, 加藤大地, 横山智哉, 中谷昂平
閉塞血管径に適合したcontact aspiration strategyでMeVOを攻略する
Stroke2023(第48回日本脳卒中学会学術集会)
2023.3.18, 横浜市

田中悠二郎, 伊賀崎翔太, 菊田 朗, 小笠原一源
Unknown SAHの経過観察中に判明した極小neckの脳底動脈瘤
第58回日本脳神経血管内治療学会中部地方会
2023.7.29, 名古屋市

田中悠二郎, 伊賀崎翔太, 菊田 朗, 小笠原一源
チームで治す dural AVF with onyx
TMUIVR症例検討会 2023.8.19, 東京都

田中悠二郎
進化する脳動脈瘤治療 - クリッピング術は絶滅するのか -
藤枝学術カンファランス 2023.9.4, 藤枝市

田中悠二郎, 鹿子裕介, 伊賀崎翔太, 菊田 朗, 小笠原一源, 渡辺大介, 井上 文, 加藤大地, 金丸晃大, 丸岡 響
血管径に適合した吸引カテーテルの選択はMeVOの治療成績向上に寄与する
第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会
2023.11.25, 京都市

田中悠二郎
MGWの進化がもたらす脳動脈瘤コイル塞栓術のサル
ベージテクニック
第43回静岡県脳神経血管内手術懇話会
2023.12.2, 浜松市

《 講演 》

伊賀崎翔太
脳梗塞における超急性期から急性期の血行再建術と薬
物治療
2023.9.22, 藤枝市

田中悠二郎
Spinal dAVFの1例
静岡脳血管内治療座談会
2023.5.12, 浜松市

田中悠二郎
MeVO血栓回収 5つのポイント
Shizuoka NET Seminar -AIS-
2023.7.14, Web

田中悠二郎
吸引カテーテルを徹底検証！あえて純国産SALVAを
選ぶ理由とは？
第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会ニプロイブ
ニングセミナー
2023.11.23, 京都市

田中悠二郎
血栓回収 リスク0（ゼロ）への挑戦 - SOFIA,
Tronを用いたMeVO戦略 -
第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会テルモラン
チョンセミナー
2023.11.23, 京都市

田中悠二郎
症候性になってしまったVA血栓化瘤の治療方針
Skill Share Networks on-site Meeting 2023
2023.12.15, 小田原市

《 座長 》

田中悠二郎
静岡中部SAHネットワーク Expert Meeting
2023.5.26, 静岡市

田中悠二郎
神経救急Web Conference in 志太榛原
2023.6.9, 藤枝市

田中悠二郎
手術手技セミナー in静岡
2023.9.7, 静岡市

田中悠二郎
Stroke Live Symposium
2023.9.20, 藤枝市

《 報道・メディア関係 》

田中悠二郎
脳卒中にご用心 ～いま右手が動かなくなったら～
SBSラジオ サンデークリニック
2023.7.23, 静岡市

田中悠二郎
脳卒中にご用心 ～脳動脈瘤と言われたら～
SBSラジオ サンデークリニック
2023.7.30, 静岡市

泌尿器科

《 学会発表 》

田中悠二郎, 石川 岳, 佐野明日香, 竹村綾奈, 佐藤 亮,
渡邊恭平, 松下雄登, 渡邊弘充, 田村啓多, 本山大輔,
杉山貴之, 大塚篤史, 三宅秀明
当院における進行性尿路上皮癌に対する Enfortumab
Vedotin の初期使用経験
第110回日本泌尿器科学会総会
2023.4.21, 神戸市

久世俊輔, 伊藤寿樹, 榛葉雄亮, 田中悠二郎, 田嶋健一
当院における HoLEP, TUEB の初期治療経験
第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会
2023.11.10, 米子市

麻酔科

《 論文 》

Fukuda M, Sakai H, Koh K, Sakurada S, Ando N,
Hayashida M and Kawagoe I
Unusal severe hypoxemia due to unilateral
pulmonary edema after conventional
cardiopulmonary bypass salvaged by veno-
venous extracorporeal membrane oxygenation: a

case report

JA Clinical Report 9-65, 2023

Uebayashi A, Ema T, Oiwa H, Morita S, Sakai H, Funai K

A case of pyothorax after treatment of burn inhalation injury.case report.

International Journal of Surgery Case Reports
113, 2023

Oiwa H, Sugawara K, Morita S, Uebayashi A, Sakai H, Funai K, Ema T

Severe subglottic stenosis after resection of anterior mediastinal tumor using a double-lumen tube: a case report

AME Case Report 8:14, 2023

《学会発表》

石川智也, 酒井宏明, 高平 香, 藤田智和
地域医療支援病院GICU発Critical Care Outreach Teamの取り組みの紹介
第50回日本集中治療医学会学術集会 2023.3.2, 京都市

放射線診断科

《論文》

Takayoshi Uematsu, Kazuaki Nakashima, Taiyo Leopoldo Harada, Hatsuko Nasu, Tatsuya Igarashi
Artificialintelligencecomputer aided detection enhanced synthesized mammograms: comparison with original digital mammograms alone and in combination with tomosynthesis images in an experimental setting

Brest Cancer 30 : 46-55, 2023

Takayoshi Uematsu, Kazuaki Nakashima, Taiyo Leopoldo Harada, Hatsuko Nasu, Tatsuya Igarashi
Comparisons between artificial intelligence computer-aided detection synthesized mammograms and digital mammograms when used alone and in combination with tomosynthesis images in a virtual screening setting

Japanese Journal of Radiology Volume41
63-70, 2023

形成外科

《論文発表》

稲田享希子, 森田 勝
キセノン光治療により皮膚障害を起こした1例
日本形成外科学会誌 43(1) : 12-17, 2023.1

皮膚科

《国内学会発表》

一般演題
岡田英之, 星野友美, 矢田貝剛
先天性血管拡張性大理石様皮斑の1例
第135回日本皮膚科学会静岡地方会 2023.2.4, Web

岡田英之, 星野友美, 矢田貝剛
帯状疱疹後に生じた腹筋麻痺の3例
第137回日本皮膚科学会静岡地方会 2023.10.14, Web

放射線治療科

《論文》

Terufumi Kawamoto, Naoto Shikama, Nobuki Imano, Hikaru Kubota, Takashi Kosugi, Shuhei Sekii, Hideyuki Harada, Kazunari Yamada, Yutaka Naoi, Kazunari Miyazawa, Yasuhiro Hirano, Yuki Wada, Ayako Tonari, Tetsuo Saito, Nobue Uchida, Norio Araki, Naoki Nakamura

Incidence of and risk factors for non-hematologic toxicity with combined radiotherapy and CDK4/6 inhibitors in metastatic breast cancer using dose-volume parameters analysis: a multicenter cohort study

Brest Cancer 30 : 282-292, 2023

Shuhei Sekii, Tetsuo Saito, Takashi Kosugi, Naoki Nakamura, Hitoshi Wada, Ayako Tonari, Hirofumi Ogawa, Norio Mitsuhashi, Kazunari Yamada, Takeo Takahashi, Kei Ito, Terufumi Kawamoto, Norio

Araki, Miwako Nozaki, Joichi Heianna, Kenta Murotani, Yasuhiro Hirano, Atai Satoh, Tsuyoshi Onoe, Naoto Shikama

Who should receive single-fraction palliative radiotherapy for gastric cancer bleeding?: An exploratory analysis of a multicenter prospective observational study (JROSG 17-3)

Clinical and Translational Radiation Oncology
42: (June);100657, 2023

Hiroki Shirato, Hideyuki Harada, Yukako Iwasaki, Akifumi Notsu, Kazunari Yamada, Haruka Uezono, Yutaro Koide, Hitoshi Wada, Hikaru Kubota, Naoto Shikama, Takuya Yamazaki, Kei Ito, Joichi Heianna, Yukinori Okada, Ayako Tonari, Shigeo Takahashi, Takashi Kosugi, Yasuo Ejima, Norio Katoh, Kayo Yoshida, Takafumi Komiyama, Nobue Uchida, Misako Miwa, Miho Watanabe, Hisayasu Nagakura, Tetsuo Saito, Hiroko Ikeda, Isao Asakawa, Tateishi Seiichiro, Takeo Takahashi, Naoyuki Shigematsu

Income and Employment of Patients at the Start of and During Follow-up After Palliative Radiation Therapy for Bone Metastasis

Advances in Radiation Oncology 8: (4);101205, 2023

IVR科

《学会発表》

萩原真清, 鹿子裕介, 竹内誠人, 五十嵐達也
オトガイ下部の動静脈奇形の一例

第20回静岡IVR懇話会
2023.6.17, 静岡市 (Web併用のハイブリッド開催)

萩原真清, 鹿子裕介, 竹内誠人, 五十嵐達也
塞栓術後に大腿神経麻痺をきたした一例

第21回静岡IVR懇話会
2023.12.16, 静岡市 (Web併用のハイブリッド開催)

緩和ケア科

《学会発表》

津久井賢, 吉野吾朗
救急外来における緩和ケアを普及・促進するための院内教育
日本緩和医療学会 第5回東海・北陸支部学術大会
2023.10.1, 浜松市

《講演》

津久井賢
突然の死別～受け入れがたい死別をした家族への対応～
緩和ケア検討会
2023.1.25, 藤枝市

津久井賢
がん悪液質と食に関連した苦悩
緩和ケア検討会
2023.2.22, 藤枝市

津久井賢
緩和ケアの現状と展望
第304回藤枝学術カンファランス
2023.5.1, 藤枝市

津久井賢
救急外来において重篤な患者・家族に対する緩和ケア的アプローチ
救急セミナー
2023.5.26, 藤枝市

吉野吾朗
がんを知ろう～あなたと大切な人の命のために～
静岡産業大学冠講座
2023.6.12, 藤枝市

吉野吾朗
がんという病気をどうとらえるか?
掛川特別支援学校令和5年度がん教育講座
2023.8.1, 掛川市

吉野吾朗
がんってどんな病気? アドバンスケアプランニングってなに?
ついすみ大洲講演会
2023.8.10, 藤枝市

吉野吾朗
がんという病気をどうとらえるか?
榛原高校令和5年度がん教育講座
2023.10.26, 牧之原市

救急科

《 論文発表 》

松山周平, 他
A病院における呼吸サポートチームの活動報告と今後の課題
日本クリティカルケア看護学会誌 (JACCN)
Vol.19: 157-165, 2023

《 執筆 / 書籍 》

角山泰一郎
頸部外傷
改訂第3版 外傷専門診療ガイドラインJETEC 2023.6

麻喜幹博
第3章合併症の予防策と発症時の戦略5 たこつぼ症候群
「重症患者が苦手」な研修医への集中治療の極意を伝授
2023.7

角山泰一郎
腹部刺創に対するDPL
レジデントのための超基本手技 2023.10

麻喜幹博
ICU編 E薬剤・薬理 05降圧薬薬理
BMI Over 30 肥満患者のER/ICU 2023.12

《 講演発表 》

松山周平
てんかん重積の治療経験を踏まえて
神経救急WebConference in志太榛原 Web

《 学会発表 》

加納誠也
救急領域におけるトラネキサム酸最新のエビデンスと
実際 (若手教育講演)
第50回日本集中治療医学会学術集会 2023.3, 京都市

麻喜幹博, 松山周平, 山森 温, 内田香名, 竹内誠人,
加納誠也, 北村真樹, 角山泰一郎, 三木靖雄
当院へ5年間に搬送された院外心肺停止608例から蘇
生後集中治療の適応を検討する
第50回日本集中治療医学会学術集会 2023.3, 京都市

竹内誠人, 増田崇光, 内田香名
REBOAが有効であった医原性門脈損傷の一例
第59回日本腹部救急医学会総会 2023.3, 沖縄県

角山泰一郎, 北村真樹, 増田崇光, 竹内誠人, 東 正樹,
神谷欣志
Acute care surgeryの役割と地域における包括的外
傷診療体制の構築
第123回日本外科学会定期学術集会 2023.4, 東京

Taichiro Tsunoyama
Surgical management of complex
pancreaticoduodenal injury. Delayed
reconstruction and organ-preserving procedure.
Oral presentation.
The 6th World Trauma Congress 2023.8 Tokyo

Taichiro Tsunoyama
Characteristics and Surgical strategies of
gunshot wounds patients
第15回日本Acute Care Surgery学会学術集会.11th
Joint Scientific Congress of KSACS and JSACS
2023.10, Chiba

安藤実大, 麻喜幹博, 松山周平, 内田香名, 加納誠也,
角山泰一郎, 三木靖雄
カーバメート中毒を背景に発症したたこつぼ症候群に
致死性の出血性合併症を併発した一例
第26回救急医学会中部地方会学術集会
2023.12, 三島市

北村真樹, 角山泰一郎
外傷に対するREBOAの使用経験と適正使用の検討
第26回救急医学会中部地方会学術集会
2023.12, 三島市

麻喜幹博
Cost freeで開始できた12誘導心電図伝送の取り組み
第26回救急医学会中部地方会学術集会
2023.12, 三島市

角山泰一郎
銃創患者の特徴とその対応
第26回救急医学会中部地方会学術集会
2023.12, 三島市

増田崇光, 松山周平, 内田香名, 竹内誠人, 加納誠也,
麻喜幹博, 北村正樹, 角山泰一朗, 三木靖雄
重度の肋骨骨折の転位やCTでの血管漏外漏出像を認めず、ショックに至った外傷性血胸の2例
第37回日本外傷学会 2023.6, 名古屋市中村区

増田崇光, 松山周平, 内田香名, 竹内誠人, 加納誠也,
麻喜幹博, 北村正樹, 角山泰一朗, 三木靖雄
Soluble Fibrin x ProteinC抗原CombiによりDIC診断能を評価した9症例
第51回日本救急医学会総会 2023.11, 東京都文京区

薬剤部

《学会・研究会発表》

松浦紘生
当院における骨軟部組織感染症に対する局所高濃度抗菌薬持続灌流療法での有効性及び安全性について
第33回日本医療薬学会総会 2023.11.04, 仙台市

《講演》

山下真彩
外用剤の使い方
褥瘡および創傷ケア看護院内認定養成コース
2023.01.19, 藤枝市

松浦紘生
当院での内服抗菌薬使用状況
外来感染対策向上加算の算定要件に係わるカンファランス
2023.02.15, 藤枝市

中山 勲
医薬品の安全使用
新人研修会 2023.04.03, 藤枝市

緒方有希
静脈注射に関する薬剤の基礎知識
新人研修会 2023.4.4, 藤枝市

八木さゆり
未来へ残そう抗菌薬 ～薬剤耐性 (AMR) と適正使用について考える～

2023年度第1回抗菌薬適正使用研修会・第1回院内感染対策研修会 2023.04～05, 藤枝市

大石瑞樹
当院のNST活動報告
静岡中部輸液療法研究会 2023.07.10, 静岡市

須田有希子
当院における医療用麻薬の使用について
藤枝薬剤師会定例研修会 2023.8.24, 藤枝市

須田有希子
PCA機能付きポンプを用いた医療用麻薬の使用について
静岡県病院薬剤師会 中部支部例会 (10月開催)
2023.10.17, 静岡市

中山 勲
思い込みによるエラー
医療機器・医薬品安全研修会 2023.09.26, 藤枝市

八木さゆり
インフルエンザとコロナの治療薬について
2023年度第2回抗菌薬適正使用研修会・第2回院内感染対策研修会 2023.10～11, 藤枝市

大石梨紗
薬物療法について -インスリンと薬-
市民糖尿病教室 2023.11.29, 藤枝市

超音波科

《投稿》

林健太郎
熟練ソノグラファーの思考アルゴリズムとテクニック・腹部領域
超音波検査技術 48(2) : 194-195, April2023

林健太郎
超音波検査の「描出不良」解決テクニック1.1)肝臓
MedicalTechnology 50(10) : 994-999, 2023.10

《学会、勉強会発表》

北川敬康

超音波検査での心機能解析：“再現性が悪い”は言い訳にならない！定量的評価を目指して

日本放射線技術学会第79回総会学術大会JSRT-JCS合同企画
2023.4.15, 横浜市

池田愛奈

拡張した管腔像伴う膵腫瘍の一例

第81回超音波部会研修会
2023.9.30, 静岡市

林健太郎

腹痛にて救急外来を受診した心窩部腫瘍の一例

消化管エコー研究会2023
2023.10.22, 東京都千代田区

《講演》

林健太郎

消化管の描出、診方

第76回東海エコーカンファレンス
2023.4.17, 浜松市

林健太郎

ひとりできるもん！DVTエコー～超音波による深部静脈血栓・下肢静脈瘤の標準的評価法～

研修医症例発表会
2023.6.15, 藤枝市

林健太郎

LOGIQE10xの使用経験～消化管超音波検査におけるリニアプローブでの実際～

MeetTheExpertTeamsin静岡
2023.7.12, Web

林健太郎

ハンズオンセミナー講師

消化管エコー研究会ハンズオンセミナー2023

2023.8.5, 大阪市

林健太郎

ひとりできるもん！DVT、静脈瘤エコー

第9回東海血管検査研究会・第2回中部CVTの会

2023.12.3, 名古屋市

放射線科

《学会発表》

大川剛史, 鈴木康介, 佐藤恵梨子, 天野守計

<症例報告>MRSが鑑別診断に有効であった定位放射線治療後の転移性脳腫瘍再発の1例

第26回静岡県放射線技師会学術大会

2022.05.29, 浜松市

大川剛史

こんな末梢神経描出方法もありますよ！～3D T2-FFE with MSDE～

フィリップスMR ユーザーズミーティング全国大会予選会

2022.07, Web

大川剛史

Accuracy of quantitative values of MR Spectroscopy using MRS phantom for maintenance

第50回日本磁気共鳴医学会大会
2022.09.10, 名古屋市

大川剛史

ファントムを用いた散乱線補正処理の有無による管電圧ごとのコントラスト評価

第38回日本診療放射線技師学術大会

2022.09.17, 神戸市

佐藤恵梨子, 大川剛史, 天野守計, 鈴木康一郎

手関節動態撮影における撮影条件の検討

第14回中部放射線医療技術学術大会

2022.11.5, 名古屋市

《講演》

大川剛史

感染対策を学ぶ

静岡県放射線技師会フレッシュャーズセミナー

2022.09.10, 静岡市

大川剛史

Time is Brain 頭部MRI ～save a minute, save a day～

第4回富士山QQ災害撮影研究会

2022.12.17, Web

蒔田鎮靖
症例提示・解説
第61回 日本消化器がん検診学会総会 2022.6.12, Web

曾根良介
当院における肝臓TACEの血管撮影
第19回静岡県血管撮影研究会 2023.2.25, 静岡市

リハビリテーション科

《学会発表》

海野 真, 片山直紀
生活期脳卒中の患者の反跳膝に対して膝装具を作製し
歩容と疼痛が改善した一症例
第26回 静岡県理学療法学会
2023.06.17~18, 沼津市

《講演》

清水裕子
継続的な支援が必要であった事例
志太榛原地域高次脳機能障害支援従事者研修会
2023.11.21, 藤枝市

臨床栄養科

《発表》

寺田直哉
インシデント・アクシデントそして サンクスレポートに・・・
令和4年度 静岡県給食協会 事例研究発表会
2023.2.3, 静岡市

《講演》

篠原由美子
心不全の栄養指導について
3B新人看護師勉強会 2023.3.15, 藤枝市

清水英美
褥瘡・創傷患者の栄養管理
褥瘡および創傷ケア院内認定看護師養成コース
2023.3.16, 藤枝市

岩下滋子
糖尿病の食事療法
市民糖尿病教室 2023.8.2, 藤枝市

杉本智子
がん患者の栄養管理
がん看護コース基礎編 2023.8.10, 藤枝市

池上美彩
慢性呼吸不全器患者の栄養管理
呼吸器ケア研修会 2023.8.30, 藤枝市

清水美美
当院の食事について ~食種・食形態・コメントのポイント~
NST研修会 2023.11.27, 藤枝市

八木捺季
栄養剤の紹介・使い方
NST研修会 2023.11.27, 藤枝市

看護部

《著書・論文》

石川智也
急変対応「どうしよう？」の次がわかる急変対応
エキスパートナーズ11月号 39(13):26~65, 2023

水島史乃
【ここがポイント!消化管ストーマ関連合併症の予防と管理】
消化管ストーマ関連合併症予防におけるケアの基本
WOC Nursing 11(1):24~30, 2023

《学会発表》

石川智也, 藤田智和, 高平 香, 酒井宏明
地方医療支援病院GICU発 Critical Care Outreach
Teamの取り組みの紹介
日本集中治療医学会学会 第50回日本集中治療医学会
学術集会 2023.3.2, 京都市

石川智也, 伊藤聖野, 酒井宏明
当院Critical Care Outreach Teamの取り組みの紹介
~チーム拡大の問題点と課題~

日本医療マネジメント学会 第28回静岡県支部学術集会
2023.8.5, 沼津市

増田喜昭
Role of emergency department nurses in
measuring and recovering subjective feelings of
health
第26回東アジア看護学者フォーラム
2023.3.10-11, 東京都

長坂信次郎
Patient experience thirst while mechanically
ventilated in the intensive care unit(CU)における人
工呼吸中の患者の口の渇きに関する体験
第26回東アジア看護学者フォーラム
2023.3.10-11, 東京都

水島史乃, 長谷川聡, 遠藤友香, 佐々木久美, 吉野吾朗,
森永美乃
乳がん皮膚浸潤による自壊創のセルフケアを支援した一例
第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会
2023.7.8-9, 仙台市

水島史乃, 森永美乃, 森田 勝, 矢田貝剛
褥瘡発生例におけるがん疾患とそれ以外の疾患の状況
について
第25回日本褥瘡学会 2023.9.1-2, 神戸市

中本明日香, 高橋孝江, 山田智紀, 永井陽子, 佐々木貴充,
木部万愛, 後藤優也, 佐藤太一, 山本龍夫
慢性腎臓病 (CKD) 指導が保存期CKD患者の心理的
変化に及ぼす影響 - 当院の現状把握と今後の課題 -
第16回日本CKDチーム医療研究会 2023.10.14, 東京都

森永美乃
看護師特定行為研修修了者の活躍の仕組み「特定行為
実践の見える記録の検討」
第64回全日本病院学会 2023.10.14-15, 広島市

神谷有香
その人にとって「安全な食事」と「食べたい食事」が
異なる場合に感じるジレンマ
第16回日本摂食嚥下障害看護研究会
2023.11.19, 名古屋市

岩本玲子
当院におけるラピッドカー運用の現状と今後の課題
第25回日本救急看護学会 学術集会
2023.11.24, 長崎市

大垣 梢, 藤井ゆかり
訪問看護における末期癌者の意思決定支援
第44回日本死の臨床研究会年次大会
2023.11.25, 松山市

金高倅子, 吉田寿美, 津久井賢
集中治療室での予後不良患者に対する悪い知らせの伝
え方について葛藤した一例
第44回日本死の臨床研究会年次大会
2023.11.25, 松山市

増田喜昭
グラウンドナースの教育に関する当院の取り組みと課題
第26回日本救急医学会中部地方会総会
2023.12.2, 三島市

増田喜昭
不確実性への対応、OODAループを活用した救急外来
看護師OJT教育の一例
第26回日本救急医学会中部地方会総会
2023.12.2, 三島市

大石泰規, 増田喜昭
患者さんの"今"に応える、"断らない救急医療"の実
現に向け特定看護師がすべきこと
第26回日本救急医学会中部地方会総会
2023.12.2, 三島市

《 講演 の 場 合 》

石川智也
看護実践の再確認 バイタルサインの意味
公益社団法人静岡県看護協会 准看護師進学支援研修会
2023.2.18, 静岡市

水島史乃
チーム連携論 - 緩和ケアチームの活動と課題 -
常葉大学健康科学部 2023.6.13, 静岡市

水島史乃
臨床判断をOJTに活かして組織の看護力を高めよう
静岡県看護協会 2023.8.7, 10.13, 静岡市

水島史乃
「がん遺伝子パネル検査」におけるスタッフのかかわり
- 看護師の立場から -
はままつ遺伝ケアネットワーク勉強会
2023.10.2, 浜松市(オンライン)

水島史乃
がん看護学演習Ⅱa
「手術療法に伴う機能・器質的变化に対するセルフケア」
「がん薬物療法による有害事象の症状マネジメントとセルフケア」
山梨県立大学看護学研究科 2023.10.21, 甲府市

水島史乃
質の高いエンド・オブ・ライフ・ケア
第9回藤枝市立総合病院ELNEC-Jコアカリキュラム看護
師教育プログラム 2023.11.4~5, 藤枝市

水島史乃
職業倫理と意思決定支援
静岡県看護協会「看護の質向上促進研修」
2023.11.14, 静岡市

医療安全管理室

《 講演 》

長坂信次郎
Patient experience thirst while mechanically
ventilated in the intensive care unit
Secretariat of 26th East Asia Forum of Nursing
Scholars 2023.3.10, 東京都

健診推進室

《 座長・演者 》

梶田和美
微生物9

第72回日本医学検査学会 2023.5.20, 群馬県

梶田和美
子宮頸がんワクチン接種に向けた当院での取り組み
静岡県病院HPVワクチンセミナー 2023.10.11, 静岡県

梶田和美
微生物部門 同定・薬剤感受性検査1
令和5年度静岡県臨床検査精度管理調査報告会
2023.12.1, 静岡県

《 論文 》

Masanori Harada, Kazuyo Yasuda, Kazumi Uruchida,
Ryoma Yamashita, Keisuke Morikawa, Yutaro Ito,
Eisuke Mochizuki, Shun Matsuura, Masaru Tsukui
a, Naoki Koshimizu
An autopsy case of disseminated Cunninghamella
bertholletiae infection in an immunocompetent
patient: a case report
3 March 2023

福井脩介, 西山元啓, 白川元昭, 安田和世, 梶田和美
Helicobacter cinaedi による感染性腹部動脈瘤の2例
第31回日本血管外科学会 東海北陸地方会
2023.3.18, 金沢市

医療情報分析室

《 寄稿 》

塩澤裕司
適時調査 病院における事例集: 「“いい準備”と“ベクトル
合わせ”が結果を変える」
産労総合研究所 医事業務 No.649: 26-30, 2023.6.15

塩澤裕司
施設基準は“木”、“森”は医療の質、我々は木と森の管
理人
施設基準管理士会報誌 Professionals 2023
Vol.9: 2, 2023.3.19

藤枝市立総合病院学術誌投稿規定

1. 投稿資格

投稿者は、原則として当院の職員又は前年に当院の職員であった者とする。

2. 投稿内容

本誌には、原則として原著、症例報告、看護研究論文、技術研究論文および年間の研究業績を掲載する。なお、既発表論文は掲載しない。

3. 原稿の様式

- (1) (提出する原稿は、ワードプロセッサを使用し、36字×28行(1,000字：2分の1ページ相当)を1枚とし横書きとする。
- (2) 論文は、15枚以内とする。(要旨、参考文献、図、表を含む。)
- (3) 図・表は別様とする場合、それぞれ原稿2分の1枚として換算する。
- (4) 図・表にはそれぞれ通し番号(図-○)(表-○)と図表名を、図においては下部中央に、表においては上部中央に付するものとする。
- (5) 図・表を本文中に挿入する場合には、その位置に括弧< >書きにして図表番号を明示すること。
- (6) 本文の前に論文名、科名、投稿者名を明示したのち、300字程度の要旨をつけること。
- (7) 写真は手札の大きさで、原則として白黒とする。
- (8) 参考文献は、文中に上付1/4倍文字(…である⁽¹⁾)で明示し、文末に次の様式に統一して番号の順に列挙する。
 - a, 雑誌の場合
著者名. 論文題名. 雑誌名. 巻号：最初頁～最終頁. 西暦年
 - 1) 大橋信治, 岡村正造ほか. 食道アカラシアに合併した食道癌の1切除例. 胃と腸. 27：977～981
 - 2) Crohn BB. A historic note on ulcerative colitis. Gastroenterology. 42：366～370, 2020
 - b, 単行本の場合：
著者名. 書名(編集者名). 版数. 発行所. 発行地：最初頁～最後頁, 発行西暦年
 - 1) 薄井坦子. 看護のための人間論・ナースが視る人体. 初版. (株)講談社. 東京：26～30, 1987
 - 2) Potter EL, Craig JM, et al. Pathology of the Fetus and the Infant. (3rd ed)：Year Book. Chicago：434～438, 2019
 - c, 電子文献の場合：著者名.
論文名, 雑誌名〔媒体表示J. 版数. 出版地；出版者. 更新や改訂の日付〔引用日付〕, ページ等. アクセス先. ISSN
 - 1) Linde K, Jobst KA. Honeopathy for chronic asthma. ConlineJ. 東京：JANCO. [cited 2019-02-06] available from URL. <http://www.nihs.go.jp/cochrane.html>. 1464-780x

4. 原稿の様式

論文の採否は、編集委員会において編集委員による査読を経て決定する。

5. 論文の校正

論文の校正は、原則として著者が行う。

学術業績リストの形式

1. 掲載の方法

業績リストは、①著書・論文、②学会発表、③講演、④寄稿の順に掲載するとともに、日付順に並べ替えること。

2. リストの様式等

業績リストは、下記要領で統一し提出すること。

① 著書・論文の場合

著者名、共同研究者名

著書名又は論文の題名

掲載雑誌名（著書の場合は出版者名）

巻（版数）：最初頁～最後頁，発行西暦年

[記載例]

大橋信治，岡村正造 …………… ←共同研究者全員の名前を載せる。

食道アカラシアに合併した食道癌の1切除例

胃と腸

99：77～80，2023

② 学会発表の場合

著者名 共同研究者名

演題名

学会名 西暦年月日，場所（市区名，又は都道府県名）

[記載例]

米村信義，木村正 …………… ←共同研究者全員の名前を載せる。

注射物質による異物性肉芽腫の治療経験

第99回日本形成外科学会中部支部東海地方会

2023.9.10，沼津市

③ 講演の場合

演者名

演題名

講演会名 西暦年月日，場所（市区名，又は都道府県名）

[記載例]

藤枝太郎

藤枝市立総合病院の症例研究について

第99回日本〇〇科学会中部支部分科会

2022.11.11，藤枝市

④ 寄稿の場合

筆者名

記事の題名

掲載誌名 出版社名，発行西暦年月

[記載例]

病院花子

静岡県史の中の漢方薬

藤枝市立総合病院広報誌おもいやり 藤枝市立総合病院

2023.10.23

編集後記

藤枝市立総合病院学術誌をお読みいただきありがとうございます。

今回は、3編の論文を投稿していただきました。

2023年は、新型コロナウイルス感染症が社会的に大きな節目を迎えた年であり、医療現場においても日常診療のあり方が徐々に変化していく一年となりました。そのような状況の中でも、本誌に掲載された論文や報告からは、患者さんに寄り添いながら医療の質向上を目指す当院職員の真摯な姿勢と、継続的な学術活動への強い意欲が感じられます。

臨床現場での実践に根ざした研究成果や、日々の工夫から生まれた知見は、院内のみならず地域医療全体の発展に寄与するものであり、本学術誌がその共有の場として機能していることを大変心強く思います。

今後も本誌が、職種や診療科の垣根を越えた学びと交流の場となり、藤枝市立総合病院における医療・看護・医療技術のさらなる向上につながることを願っております。

最後に、今回ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。今後ともこれまでと同様に、医療の質向上につながる積極的な論文の投稿をよろしく願いいたします。

医事管理課 杉山 卓弘

藤枝市立総合病院学術誌

Fujieda Medical Journal

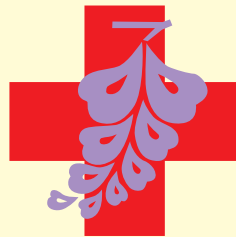
—第30巻第1号—

発行 藤枝市立総合病院
静岡県藤枝市駿河台4丁目1番11号
TEL054-646-1111

【学術誌・年報編集委員会】

委員長	尾畑 純栄		
副委員長	小清水直樹		
編集委員	渡貫 圭	長谷川 聡	森田 勝
	天野 守計	鈴木康一郎	橋本恵利子
	福與 彩子	杉山卓弘	
事務局	小澤雄志	疋田幹佳	井原涼太
発行日	令和8年2月		
編集	松本印刷株式会社		

第 30 卷 第 1 号



藤枝市立総合病院学術誌
Fujieda Medical Journal